



伊予市自転車を活用した観光等推進計画
Iyo Cycling Paradise



伊予市

目 次

1 伊予市自転車を活用した観光等推進計画の基本的な考え方.....	1-1
1.1 計画の策定目的.....	1-1
1.2 自転車を取りまく動向.....	1-2
1.3 計画の位置づけ.....	1-4
1.4 計画区域.....	1-5
1.5 計画期間.....	1-5
2 自転車利用環境に関する現況調査.....	2-1
2.1 市民アンケート調査.....	2-1
2.2 自転車利用者を対象としたアンケート調査.....	2-8
3 伊予市の自転車に関わる現状と課題の整理.....	3-1
3.1 伊予市の自転車に関わる現状の整理.....	3-1
3.2 伊予市の自転車に関わる課題の整理.....	3-44
4 計画の基本方針・目標.....	4-1
4.1 課題を踏まえた計画の基本方針.....	4-1
4.2 基本方針を踏まえた目標.....	4-2
5 実施すべき施策とスケジュール.....	5-1
5.1 実施すべき施策.....	5-1
5.2 実施すべき施策のスケジュール.....	5-2
6 推進体制及びモニタリング方法.....	6-1
6.1 推進体制.....	6-1
6.2 モニタリング方法.....	6-3



1 伊予市自転車を活用した観光等推進計画の基本的な考え方

1.1 計画の策定目的

伊予灘の美しい海と多島美、季節によって色彩を変える山々、人の温かさが伝わる伝統的な街並みなど、様々なロケーションが楽しめる当市は、徒歩より少し早く、自動車よりもゆっくりとしたスピードで、風の匂いをはじめ五感で楽しめる、自転車による観光に適しています。

自転車は、目的地だけでなく道中を楽しめることが魅力の1つです。当市では、e-bike^{※1}のレンタサイクルを用意しており、海風を感じながらのんびり走ったらカフェで休憩したり、写真を撮ったり、お散歩感覚で楽しめる「ポタリング^{※2}」を推奨しています。

また、自転車の活用は、わが国が抱く様々な社会的課題の解決方法として期待されている面もあり、自転車活用推進の流れは時代の要請ともいえます。

このような中、自転車の活用による環境負荷の低減、災害時における交通機能の維持、国民の健康増進等を図ることなど新たな課題に対応するため、交通の安全の確保を図りつつ、自転車の利用を増進し、交通における自動車への依存の度を低減することによって、公共の利益の増進に資すること等を基本理念とする自転車活用推進法（平成28年法律第113号。以下「法」という。）が平成29年5月1日に施行され、さらに、法第9条に基づく自転車活用推進計画が平成30年6月8日に閣議決定されました。

これを受け、当市においては、自転車を活用した観光の推進と地域の活性化を基調とし、良好な都市環境の形成、健康長寿社会の実現、交通安全の推進などの各種社会的問題にも対応することを目的とし、法第11条の規定に基づき本計画を策定するものです。

※1 e-bike とは

電動アシスト付きの自転車のことで、スポーツタイプのものからシティサイクルタイプのものまであります。伊予市のレンタサイクルでは、スポーツタイプ（クロスバイク）とシティサイクルタイプのどちらも用意しており、本格的なサイクリングだけでなく、お散歩感覚のサイクリング（ポタリング）にも適しています。

※2 ポタリングとは

「Putter（のんびりブラブラする）」からきた和製英語で、お散歩感覚で楽しむサイクリングのことです。はっきりとした定義はありませんが、一般的には距離や速度を気にせず、自転車でゆったり土地をめぐることとされています。本計画では、レンタサイクルでご当地グルメめぐりをしたり、気の向くままに景色のよいところをめぐって写真を撮ったり、気軽にのんびりと自転車を楽しむことをポタリングと定義しています。



1.2 自転車を取りまく動向

1) 国の動向

平成 29 年 5 月 自転車活用推進法

地域の実情に応じた自転車の活用の推進に関する施策を定めた計画を定めることが、地方自治体においても努力義務化されました。

基本理念

- ・自転車は環境に深刻な影響を及ぼす物質等を発生せず、災害時において機動的
- ・自動車依存の低減による、国民の健康の増進及び交通混雑緩和等、経済的社会的効果
- ・交通体系における自転車による交通の役割を拡大
- ・自転車の活用を推進する際は、交通安全の確保を図る

平成 30 年 6 月 自転車活用推進計画

自転車の活用の推進に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、自転車の活用の推進に関する目標及び講ずべき必要な措置を定めた計画として策定されました。

自転車の活用推進に関する目標

- ・自転車交通の役割拡大による良好な都市環境の形成
- ・サイクリスポーツの振興等による活力ある健康長寿社会の実現
- ・サイクルツーリズムの推進による観光立国の実現
- ・自転車事故のない安全で安心な社会の実現

令和 3 年 5 月改定 第 2 次自転車活用推進計画

昨今の社会情勢の変化等を踏まえ、また、今後の社会の動向を見据えつつ、持続可能な社会の実現に向けた自転車の活用の推進を一層図るため、改定されました。

第 1 次計画からの社会情勢の変化等



追加された新たな施策

- ・多様な自転車の開発・普及
- ・損害賠償責任保険等への加入促進



2) 愛媛県の動向

平成 31 年 3 月

愛媛県自転車新文化推進計画

自転車活用推進法を受け、県の第 3 期アクションプログラムの策定に合わせて、自転車新文化の更なる拡大・深化に向けて、自転車の活用を総合的かつ計画的に推進するため策定されました。

自転車新文化とは

サイクリングを核にして交流人口を拡大させ、地域の活性化に繋げるとともに、県民に自転車を活用したライフスタイルを提案し、「健康」「生きがい」「友情」を育み、生活の質の向上を図ろうとする取組みです。

自転車を巡る現状及び課題に対応するための 5 つの目標

- ・県民みんながつくり・育てるサイクリングパラダイス
- ・交流人口の拡大による地域活性化
- ・歩行者・自転車にやさしいまちづくり
- ・シェア・ザ・ロードの精神に基づく自転車の安全利用
- ・サイクルスポーツの振興

※令和 3 年 3 月に、昨会情勢の変化等を踏まえ中間見直しが行われ、一部改定されました。



1.3 計画の位置づけ

本計画は、国や愛媛県の自転車活用推進計画を勘案し、当市の自転車に関する施策における最上位計画として位置づけるものです。

計画の策定にあたっては、上位計画である「第2次伊予市総合計画」や「伊予市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を踏まえ、「伊予市まるごと おもてなしプラン」、「第2次伊予市都市計画マスタープラン」などの関連計画との整合を図っています。

【計画の位置づけイメージ図】



1.4 計画区域

本計画の対象区域は、市内全域とします。

1.5 計画期間

本計画の期間は、2022 年度（令和 4 年度）から 2026 年度（令和 8 年度）までの 5 年間とします。

ただし、国及び県の計画の改定や社会情勢の変化等を踏まえ、必要に応じて計画の見直しを行うものとします。

（年度）	2021 R3	2022 R4	2023 R5	2024 R6	2025 R7	2026 R8	2027 R9～
第2次自転車活用推進計画 （令和3年5月）							
愛媛県自転車新文化推進計画 （中間見直し）							
伊予市まるごとおもてなしプラン ～伊予市観光振興計画～			Phase1			Phase2	
伊予市自転車を活用した 観光等推進計画							★ 見直し



2 自転車利用環境に関する現況調査

本計画の策定にあたり、下記 2 つの調査を実施しました。

- 市民アンケート調査（市内居住者の自転車利用状況等の把握）
- 自転車利用者を対象としたアンケート調査（市外居住者の伊予市内での自転車利用状況等の把握）

2.1 市民アンケート調査

1) 調査目的

市民の自転車利用状況、観光ニーズ、自転車関連施策及び利用環境に関する満足度等を把握することを目的としています。

2) 調査対象・回収数

調査対象：世帯主が 20 歳以上の市民 1,500 世帯を無作為抽出、高校生以上の家族も対象としています。

回 収 数：518 票（回収率 34.5%）

3) 調査実施期間

2021 年 6 月下旬～2021 年 7 月中旬

4) 調査方法

案内とアンケート票を郵送で配布し、記入したアンケート票は郵送により回収する方法でアンケートを実施しました。実施に際しては WEB 上でも回答できるようにしました。

5) 設問項目

以下に設問項目を示します。

表 2.1 調査設問項目

項目	設問
1. あなたご自身のことについてお伺いします。	Q1 性別、年齢、居住地について教えてください。 Q2 あなたの職業について、あてはまるものを 1 つお選びください。 Q3 よく使う交通手段、距離について、最もあてはまるものをそれぞれ 1 つお選びください。
2. 自転車の利用についてお伺いします。	Q4 あなたの自転車の保有・利用の状況について最もあてはまるものを 1 つお選びください。 Q5 保有自転車の車種についてあてはまるものをお選びください。複数台所持している場合は、利用の多い順に上位 3 つまでお選びください。自身で自転車を保有していない場合でも、自転車を使用することがあればお答えください。 Q6 あなたの自転車の利用頻度について最も近いものを 1 つお選びください。 Q7 あなたの自転車の利用目的についてあてはまるものを上位 3 つまでお選びください。



項目	設問
2. 自転車の利用についてお伺いします。	Q8 自転車を利用する距離（片道）について最もあてはまるものを1つお選びください。 Q9 普段、歩道のある道路を自転車で走行する際、どこを走ることが多いですか？最もあてはまるものを1つお選びください。 Q10 普段、Q9 の回答場所を走行する理由についてあてはまるものをすべてお選びください。 Q11 あなたの自転車保険加入状況について最もあてはまるものを1つお選びください。 Q12 Q11 で「11. 入っていない」と答えた方にお伺いします。加入しない理由についてあてはまるものをすべてお選びください。 Q13 あなたは自転車に乗る時にヘルメットを着用しますか？それぞれ最もあてはまるものを1つずつお選びください。 Q14 Q2 で「6. 高校生」と答えた方にお伺いします。高校卒業後にも自転車を利用するかについて最もあてはまるものを1つお選びください。 Q15 Q4 で「3. 自転車を保有しているが、利用していない」「4. 自転車を保有も利用もしていない」と答えた方にお伺いします。自転車を利用しない理由としてあてはまるものを上位3つまでお選びください。
3. 新型コロナウイルスの影響についてお伺いします。	Q16 新型コロナウイルスの影響により自転車の利用状況に変化はありましたか？「仕事関連」・「仕事関連以外」についてあてはまるものをそれぞれ1つお選びください。
4. 観光・e-bikeについてお伺いします。	Q17 あなたの e-bike の認知・利用経験について最もあてはまるものを1つお選びください。 Q18 あなたが e-bike を使いたいと思う場面について最もあてはまるものを、スポーツタイプ・シティサイクルタイプそれぞれ1つずつお選びください。 Q19 伊予市では e-bike のレンタサイクルを行っています。あなたが e-bike のレンタサイクルを利用したいと思う期間について最もあてはまるものを、スポーツタイプ・シティサイクルタイプそれぞれ1つずつお選びください。 Q20 あなたが e-bike のレンタサイクルを利用しようと思う上限金額について最もあてはまるものを、スポーツタイプ・シティサイクルタイプそれぞれ1つずつお選びください。 Q21 あなたが e-bike のレンタサイクルに求めるサービスについてあてはまるものをすべてお選びください。
5. 健康づくりについてお伺いします。	Q22 健康づくりについて最もあてはまるものを1つお選びください。
6. 安全・安心についてお伺いします。	Q23 あなたは以下に掲げる自転車の交通ルール・マナーを知っていますか？あてはまるものをすべてお選びください。 Q24 あなたが以下の自転車の交通ルール・マナーのうち、守っていないと思うものについて（自転車を利用しない方は、自転車利用者を見て、守っていないと思うものについて）あてはまるものを5つまでお選びください。



項目	設問
6. 安全・安心についてお伺いします。	Q25 65 歳以上の方で運転免許をお持ちの方はご自身が免許返納後にどのようにしたいかについて、すでに免許返納された方はご自身が現在どのようにしているかについて、それ以外の方は身近な 65 歳以上の方にどのようにしてほしいかについてご回答ください。 Q25-1 運転免許返納後の移動手段として、自転車を利用したいと思いますか？最もあてはまるものを 1 つお選びください。 Q25-2 Q25-1 で「3. 自転車を利用したいと思わない（または利用していない、利用してほしいと思わない）」、「4. わからない」と答えた方にお伺いします。運転免許返納後に利用したい（または利用している、利用してほしい）移動手段についてあてはまるものを 3 つまでお選びください。
7. 最後に全体的な自転車環境についてお伺いします。	Q26 伊予市の自転車環境についてどのように感じておられますか。それぞれあてはまるものを 1 つずつお選びください。 Q27 伊予市の自転車環境に対して優先して実現してほしい施策としてあてはまるものを上位 3 つまでお選びください。 Q28 伊予市の自転車環境についてご意見があればご記入ください。



6) 調査結果概要

調査結果概要を以下に示します。

表 2.2 調査結果概要

設問	概要
Q1 性別、年齢、居住地について教えてください。	●性別は男性が 54%、女性が 45% ●年齢は 60 代以上が 4 割以上 ●居住地は伊予地区が約 8 割、中山地区・双海地区は各 1 割
Q2 あなたの職業について、あてはまるものを 1 つお選びください。	●会社員・団体職員が約 3 割で最も多い
Q3 よく使う交通手段、距離について、最もあてはまるものをそれぞれ 1 つお選びください。	●市民の交通手段は自家用車が約 7～8 割、次に自転車が多い ●自転車での移動距離は 5km 未満が多い ●自家用車は 5km 以上が多いものの、日常では 5km 未満が約 5 割程度と近距離の移動でも自家用車を使う割合が高い
Q4 あなたの自転車の保有・利用の状況について最もあてはまるものを 1 つお選びください。	●自転車を利用している割合は約 3 割 ●「保有しているが利用していない」割合が約 2 割、「保有も利用もしていない」割合が約 5 割
Q5 保有自転車の車種についてあてはまるものをお選びください。複数台所持している場合は、利用の多い順に上位 3 つまでお選びください。自身で自転車を保有していない場合でも、自転車を使用することがあればお答えください。	●保有自転車の車種は「シティサイクル」が約 7 割で最も多い ●スポーツタイプ（クロスバイク、ロードバイク、マウンテンバイク）の割合は約 3 割 ●電動アシスト自転車の割合は約 1 割
Q6 あなたの自転車の利用頻度について最も近いものを 1 つお選びください。	●週に 3 日以上利用している割合が約 4 割
Q7 あなたの自転車の利用目的についてあてはまるものを上位 3 つまでお選びください。	●「買い物、通院などの日常生活」が約 2 割と最も多く、次いで「通勤」が約 2 割
Q8 自転車を利用する距離（片道）について最もあてはまるものを 1 つお選びください。	●2km 未満が約 6 割
Q9 普段、歩道のある道路を自転車で走行する際、どこを走ることが多いですか？最もあてはまるものを 1 つお選びください。	●歩道が約 7 割
Q10 普段、Q9 の回答場所を走行する理由についてあてはまるものをすべてお選びください。	●歩道走行の理由は、「安全で安心して走れるから」「車道を走るのが怖いから」が多い ●車道走行の理由は、「安全ではないがルールで決まっているから」が最も多く、次いで「歩道を走りたいが、幅員が狭く、歩行者も多く走れないから」となっている
Q11 あなたの自転車保険加入状況について最もあてはまるものを 1 つお選びください。	●「自転車保険に加入」、「自動車保険の特約として加入」がどちらも 2 割以上と多く、次いで「入っていない」が約 2 割



設問	概要
Q12 Q11 で「11. 入っていない」と答えた方にお伺いします。加入しない理由についてあてはまるものをすべてお選びください。	●「加入について考えたことがないから」が最も多い
Q13 あなたは自転車に乗る時にヘルメットを着用しますか？それぞれ最もあてはまるものを1つずつお選びください。	●「全く着用しない」が最も多く、「通勤・通学」、「買物等の日常活動」、「趣味（サイクリング等）」のどの目的でも7割以上
Q14 Q2 で「6. 高校生」と答えた方にお伺いします。高校卒業後にも自転車を利用するかについて最もあてはまるものを1つお選びください。	(有効回答が1件のみのため分析不可)
Q15 Q4 で「3. 自転車を保有しているが、利用していない」「4. 自転車を保有も利用もしていない」と答えた方にお伺いします。自転車を利用しない理由としてあてはまるものを上位3つまでお選びください。	●「自動車など、自転車以外の交通手段の方が便利だから」が最も多く、次に「目的地までの移動距離が長いから」が多い
Q16 新型コロナウイルスの影響により自転車の利用状況に変化はありましたか？「仕事関連」・「仕事関連以外」についてあてはまるものをそれぞれ1つお選びください。	●「変わらない」が9割以上
Q17 あなたのe-bikeの認知・利用経験について最もあてはまるものを1つお選びください。	●「知っているが、利用したことはない」が半数以上を占め、「知らない」が約4割
Q18 あなたがe-bikeを使いたいと思う場面について最もあてはまるものを、スポーツタイプ・シティサイクルタイプそれぞれ1つずつお選びください。	●スポーツタイプでは「サイクリング」、シティサイクルでは「日常生活」や「サイクリング」が多い
Q19 伊予市ではe-bikeのレンタサイクルを行っています。あなたがe-bikeのレンタサイクルを利用したいと思う期間について最もあてはまるものを、スポーツタイプ・シティサイクルタイプそれぞれ1つずつお選びください。	●スポーツタイプは半日以上が多く、シティサイクルタイプは2～3時間以内が多い
Q20 あなたがe-bikeのレンタサイクルを利用しようと思う上限金額について最もあてはまるものを、スポーツタイプ・シティサイクルタイプそれぞれ1つずつお選びください。	●スポーツタイプ、シティサイクルタイプともに「1時間あたり300円以内」が8割以上 ●スポーツタイプとシティサイクルタイプを比較すると、スポーツタイプの方が利用上限額は高い



設問	概要
Q21 あなたがe-bikeのレンタサイクルに求めるサービスについてあてはまるものをすべてお選びください。	●「乗り捨てできる」が最も多く、次いで「周辺施設の情報提供・割引サービス」、「自転車のトラブルに対応してくれるサイクルレスキューの整備」となっている
Q22 健康づくりについて最もあてはまるものを1つお選びください。	●自転車を含め運動している人が約4割 ●運動している人を除き、総じて健康づくりに興味がないよりも興味がある割合が高い
Q23 あなたは以下に掲げる自転車の交通ルール・マナーを知っていますか？あてはまるものをすべてお選びください。	●多くが8割を超えているが、「人の多い道路では自転車に乗らずに押し歩きをする」、「歩道を走るときはすぐに止まれるスピードで走る」の認知度が相対的に低い
Q24 あなたが以下の自転車の交通ルール・マナーのうち、守っていないと思うものについて（自転車を利用しない方は、自転車利用者を見て、守っていないと思うものについて）あてはまるものを5つまでお選びください。	●「ヘルメットを着用する」が最も多く、次いで「車道を走る」となっている ●「ながら運転」や「傘さし運転」、「横に並んで走らない」は、認知度が高い割に守っていない割合が高い
Q25 65歳以上の方で運転免許をお持ちの方はご自身が免許返納後にどのようにしたいかについて、すでに免許返納された方はご自身が現在どのようにしているかについて、それ以外の方は身近な65歳以上の方にどのようにしてほしいかについてご回答ください。 Q25-1 運転免許返納後の移動手段として、自転車を利用したいと思いますか？最もあてはまるものを1つお選びください。	●免許返納後に自転車を利用したいという回答は約3割
Q25-2 Q25-1で「3. 自転車を利用したいと思わない（または利用していない、利用してほしいと思わない）」、「4. わからない」と答えられた方にお伺いします。運転免許返納後に利用したい（または利用している、利用してほしい）移動手段についてあてはまるものを3つまでお選びください。	●利用しない場合の移動手段は「徒歩」、「コミュニティバス」、「家族・知人などによる送迎」が多い
Q26 伊予市の自転車環境についてどのように感じておられますか。それぞれあてはまるものを1つずつお選びください。	●全体的に「やや満足」、「満足」よりも「やや不満」、「不満」の割合が高く、特に「自転車に関する情報発信」、「自転車を活用した観光振興」、「ルール・マナーの啓発」の満足度が低い



設問	概要
Q27 伊予市の自転車環境に対して優先して実現してほしい施策としてあてはまるものを上位 3 つまでお選びください。	●「自転車走行環境整備」が最も多く、次いで「ルール・マナーの啓発」となっている
Q28 伊予市の自転車環境についてご意見があればご記入ください。	●自転車走行環境に関する意見が約 4 割と最も多く、次いでルール・マナーに関する意見が約 2 割となっている

※詳細な調査結果については「資料編」に掲載しています。



2.2 自転車利用者を対象としたアンケート調査

1) 調査目的

市外から来訪するサイクリストのニーズ把握を目的としています。

2) 調査対象・回収数

調査対象：楽天インサイト（株）に登録の以下地域居住者の内、3年以内に伊予市内での観光・立ち寄り等を目的にサイクリングをしたことがある人を対象としています。

回収数：212票

表 2.3 調査対象地域

地方	対象都府県
四国	愛媛県(伊予市は除く)、徳島県、香川県、高知県
関東	埼玉県、千葉県、神奈川県、東京都
近畿	京都府、大阪府、兵庫県
中国	岡山県、広島県

3) 調査実施期間

2021年7月上旬～2021年7月中旬

4) 調査方法

Webリサーチ会社「楽天インサイト（株）」に登録しているモニターを対象にWeb上で回答していただく方式で実施しました。



5) 設問項目

以下に設問項目を示します。

表 2.4 調査設問項目

項目	設問
1. あなたご自身のことについてお伺いします。	Q1 サイクリング実施頻度について最もあてはまるものをそれぞれ1つずつお選びください。 Q2 日頃のサイクリングで主に使用する自転車について最もあてはまるものを1つお選びください。 Q3 日頃のサイクリングで主に使用する自転車の車種について最もあてはまるものを1つお選びください。
2. 伊予市内でのサイクリング実施状況についてお伺いします。	Q4 伊予市内でのサイクリングの主な目的についてあてはまるものをすべてお選びください。 Q5 伊予市内でのサイクリングの主な目的地について最もあてはまるものを1つお選びください。 Q6 伊予市内でのサイクリングの行程について、スタート地点とゴール地点、総距離を入力してください。 Q7 伊予市内でのサイクリングの行程について、施設の立寄り順をお選びください。 Q8 Q7 で2箇所目以降すべて「32. あてはまる施設はない」を選んだ方にお伺いします。 伊予市内での立寄り施設が少ない理由として最もあてはまるものを1つお選びください。 Q9 Q4 で伊予市内のサイクリング実施頻度について「4. 半年に1回」・「5. 年1回」・「6. それ以下」と答えた方にお伺いします。 伊予市内でのサイクリング頻度が少ない理由について最もあてはまるものを1つお選びください。
3. 伊予市内でのサイクリングの意向についてお伺いします。	Q10 伊予市内で行ってみたい地域・施設についてあてはまるものをすべてお選びください。 Q11 Q10 で選択した地域・施設に今まで行かなかった理由として、最もあてはまるものを1つお選びください。 Q12 伊予市内でサイクリングを実施する、あるいはより実施するために必要な取組みについてあてはまるものをすべてお選びください。 Q13 あなたが e-bike のレンタサイクルを利用しようと思う上限金額について最もあてはまるものを、スポーツタイプ・シティサイクルタイプそれぞれ1つずつお選びください。



6) 調査結果概要

調査結果概要を以下に示します。

表 2.5 調査結果概要

設問	概要
個人属性：性別、年齢、居住地	●性別は男性が 72%、女性が 28% ●年齢は 30～50 代で約 7 割、60 代以上は 2 割未満 ●居住地は東京都、大阪府が最も多く各 2 割、次いで愛媛県（伊予市除く）、京都府が各 1 割となっている
Q1 サイクリング実施頻度について最もあてはまるものをそれぞれ 1 つずつお選びください。	●伊予市内でのサイクリング実施頻度は、半年に 1 回以下が 8 割以上
Q2 日頃のサイクリングで主に使用する自転車について最もあてはまるものを 1 つお選びください。	●マイ自転車が約 6 割、レンタサイクルが約 4 割
Q3 日頃のサイクリングで主に使用する自転車の車種について最もあてはまるものを 1 つお選びください。	●スポーツタイプ（クロスバイク、ロードバイク、マウンテンバイク）が約 7 割
Q4 伊予市内でのサイクリングの主な目的について最もあてはまるものをすべてお選びください。	●「景色」が最も多く約 9 割、次いで「食」が約 7 割となっている
Q5 伊予市内でのサイクリングの主な目的地について最もあてはまるものを 1 つお選びください。	●「伊予灘 SA」、「五色浜（五色浜公園）」、「ウェルピア伊予」と伊予地区内が多い
Q6 伊予市内でのサイクリングの行程について、スタート地点とゴール地点、総距離を入力してください。	●スタート地点、ゴール地点ともに伊予市内が最も多く、次いで松山市となっている
Q7 伊予市内でのサイクリングの行程について、施設の立寄り順をお選びください。	●施設の立寄り箇所数は 1 箇所が約 3 割と最も多い ●最初の立寄り地は「伊予灘 SA」、「五色浜（五色浜公園）」、「ウェルピア伊予」が多い
Q8 Q7 で 2 箇所目以降すべて「32. あてはまる施設はない」を選んだ方にお伺いします。伊予市内での立寄り施設が少ない理由として最もあてはまるものを 1 つお選びください。	●「立寄りたい施設がないから」、「伊予市に何があるかわからないから」が多い
Q9 Q4 で伊予市内のサイクリング実施頻度について「4. 半年に 1 回」・「5. 年 1 回」・「6. それ以下」と答えた方にお伺いします。伊予市内でのサイクリング頻度が少ない理由について最もあてはまるものを 1 つお選びください。	●距離に関係ない理由（魅力を感じない、知らない）が約 3 割



設問	概要
Q10 伊予市内で行ってみたい地域・施設についてあてはまるものをすべてお選びください。	●「ウエルピア伊予」、「伊予灘 SA」が多く、「五色姫海浜公園」や「ふたみシーサイド公園（道の駅ふたみ）」等、伊予灘沿いの施設も多い
Q11 Q10 で選択した地域・施設に今まで行かなかった理由として、最もあてはまるものを 1 つお選びください。	●「行くのに時間がかかるから」が最も多く半数を占める一方で、「行ってみたいとは思うが、そのためだけに行くほどではないから」が約 3 割となっている
Q12 伊予市内でサイクリングを実施する、あるいはより実施するために必要な取組みについてあてはまるものをすべてお選びください。	●「安全・快適な走行環境の整備」が最も多く、「サイクルオアシスの拡充」、「サイクリスト向け交通機関の整備」等も多い
Q13 あなたが e-bike のレンタサイクルを利用しようと思う上限金額について最もあてはまるものを、スポーツタイプ・シティサイクルタイプそれぞれ 1 つずつお選びください。	●「1 時間当たり 301 円以上」が半数以上 ●スポーツタイプとシティサイクルタイプを比較するとスポーツタイプの方が利用上限額は高い

※詳細な調査結果については「資料編」に掲載しています。



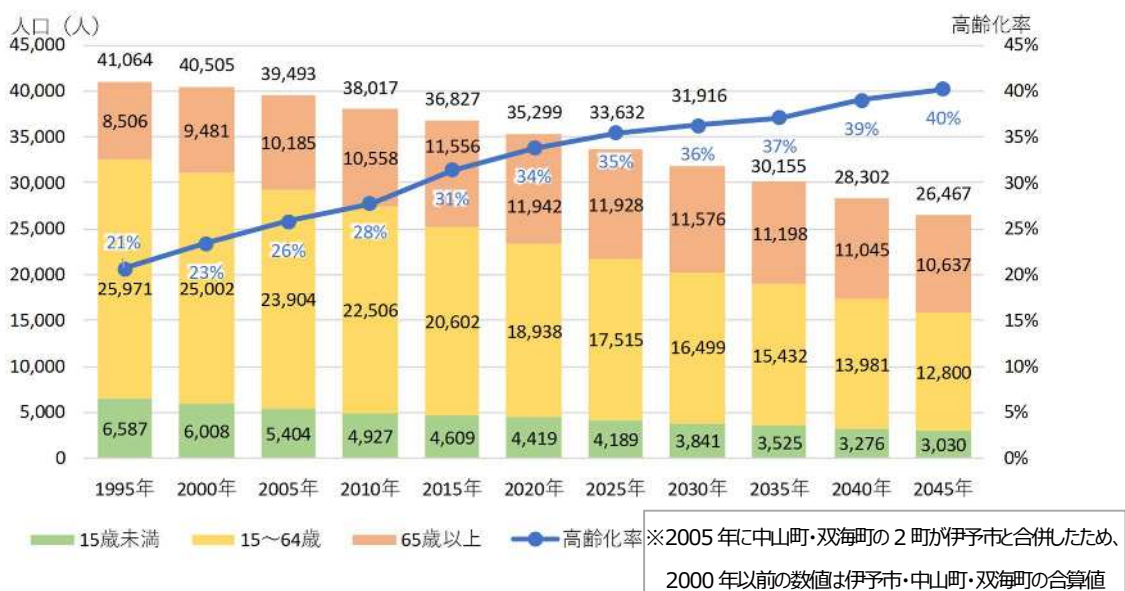
3 伊予市の自転車に関わる現状と課題の整理

3.1 伊予市の自転車に関わる現状の整理

1) 伊予市の都市環境

(1) 高齢化の進展

- 伊予市の総人口は減少傾向にあります。
- 人口構成比の推移では、15～64歳の生産年齢人口が大きく減少しており、2045年には65歳以上の老年人口（高齢者）の割合が40%になると見込まれています。
- 地区別にみると、伊予地区の人口はほぼ横ばいですが、中山地区、双海地区の人口は大きく減少しています。高齢化率はすべての地区で増加傾向にあり、中山地区・双海地区は4割以上とかなり高くなっています。



出典：2015年までは国勢調査、2020～2040年は国立社会保障・人口問題研究所の推計値

図 3.1 人口及び高齢化率の推移

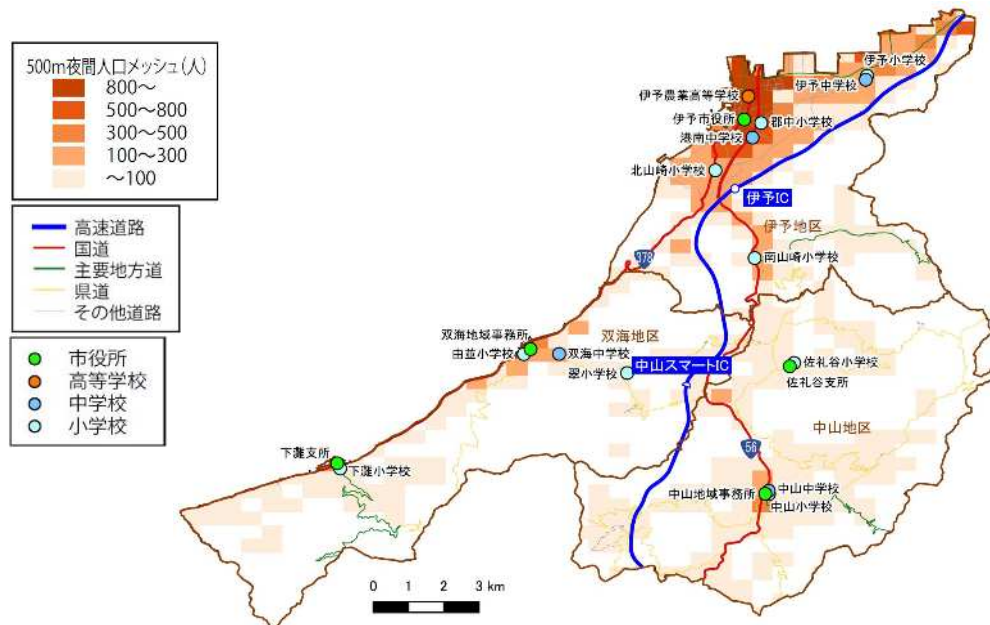


出典：国勢調査

図 3.2 地区別人口及び高齢化率の推移

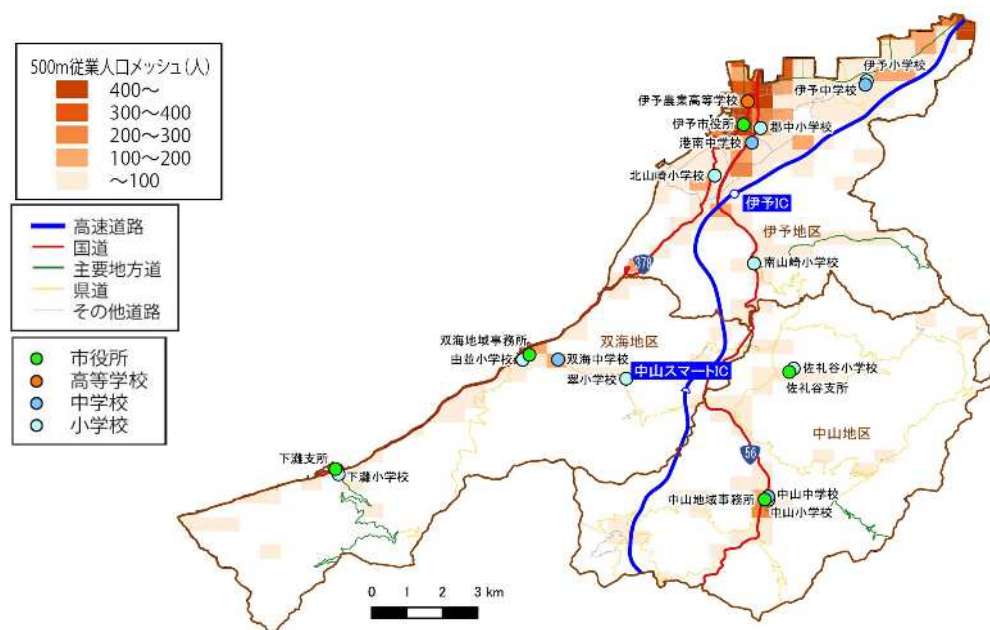
(2) 人口の分布

- 伊予地区の中心部およびその周辺に夜間人口、従業人口が集中しています。
- 中山地区、双海地区では役所や学校がある箇所を中心に夜間人口、従業人口が多くなっています。



出典:平成 27 年国勢調査

図 3.3 夜間人口分布



出典:平成 26 年経済センサス

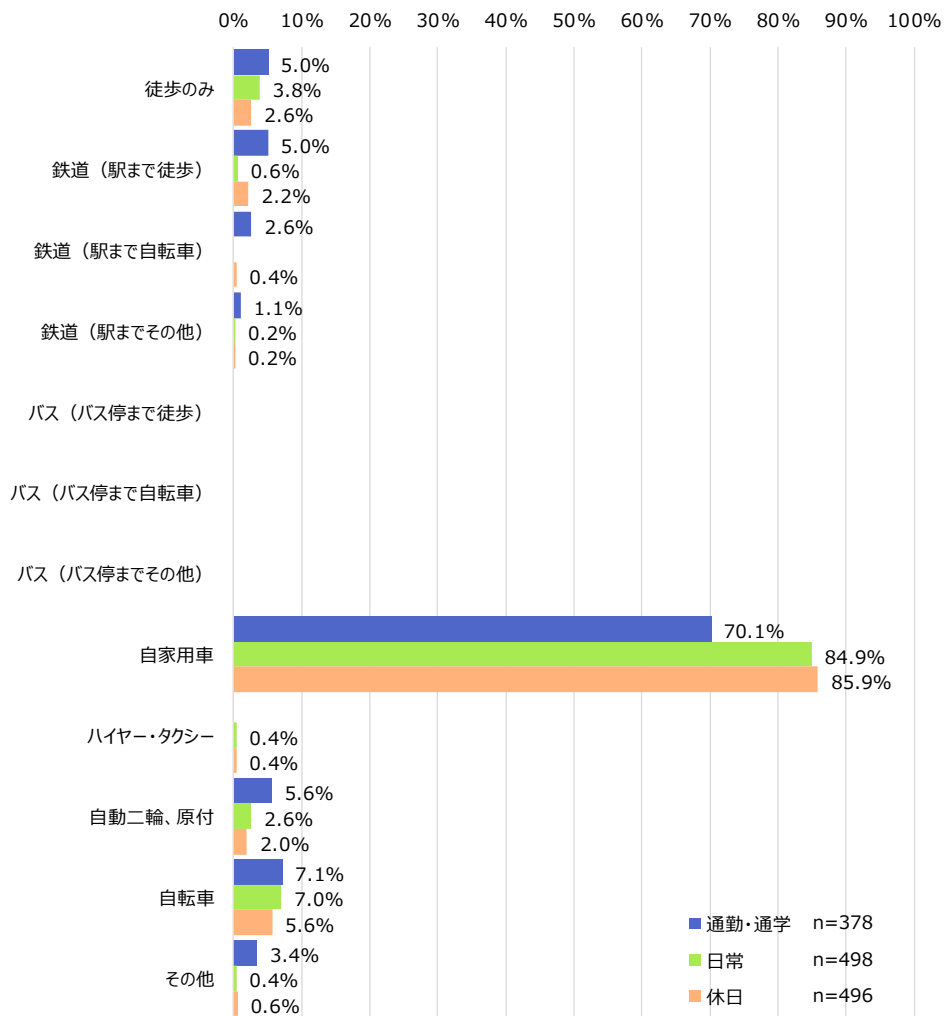
図 3.4 従業人口分布



(3) 移動の現状

a) 場面別の交通手段

○市民の交通手段は自家用車が約7～8割と最も多く、次に自転車が多くなっています。

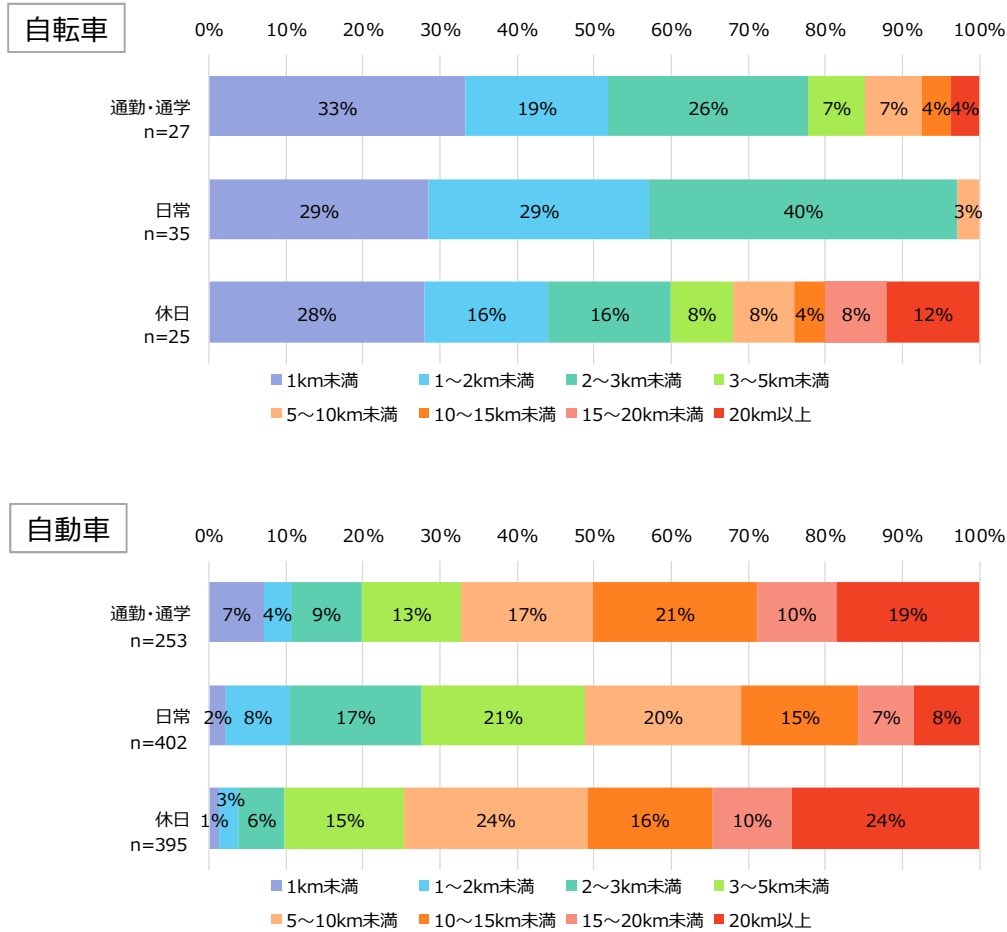


出典：市民アンケート調査

図 3.5 場面別の交通手段

b) 交通手段別の移動距離

○自転車での移動距離は5km未満が多く、自家用車は5km以上が多いものの、5km未満が日常では約5割程度と近距離の移動でも自家用車を使う割合が高くなっています。

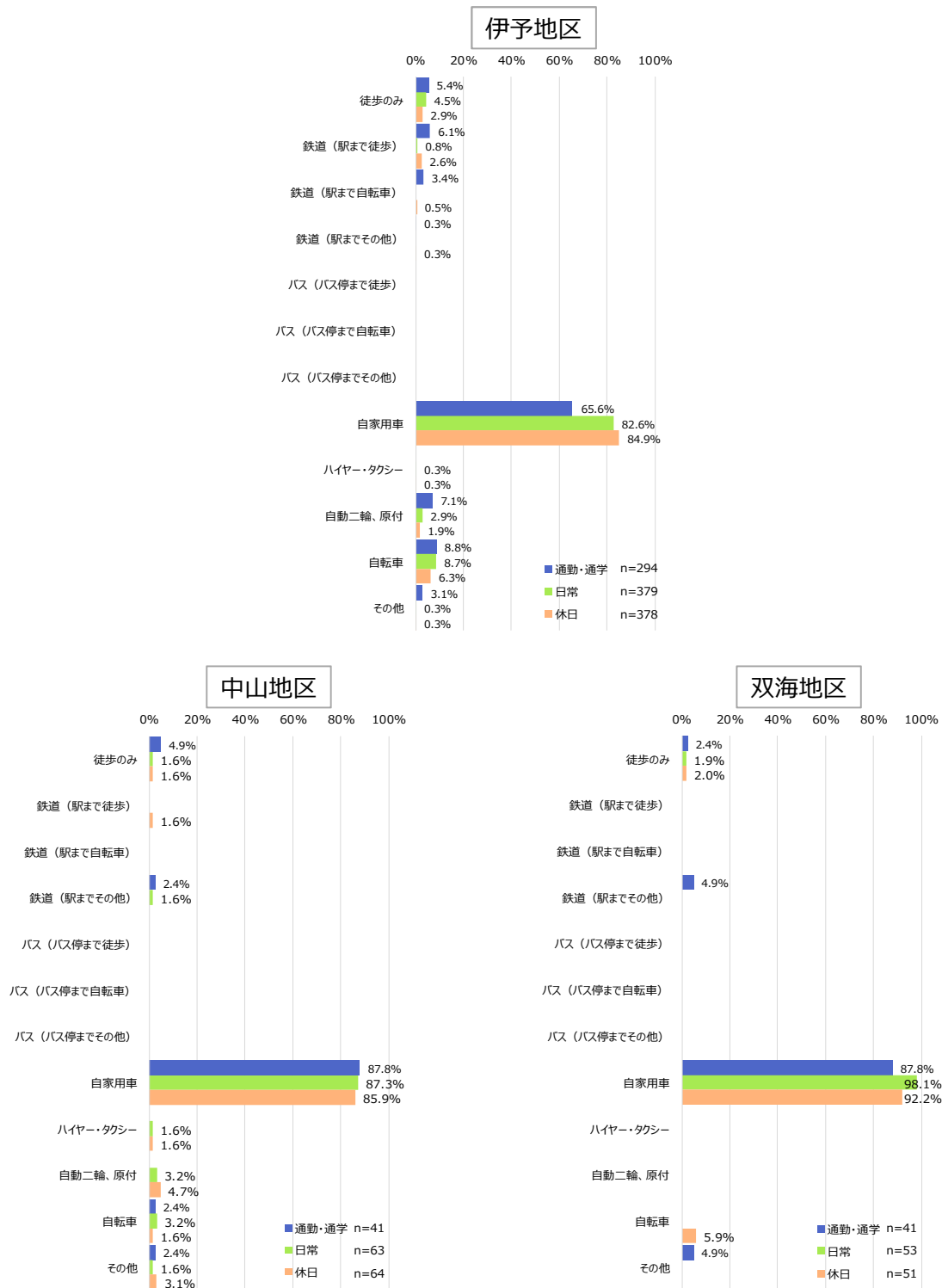


出典：市民アンケート調査

図 3.6 交通手段別の移動距離

c) 場面別の交通手段(居住地区別)

- 地区別にみると、伊予地区と比べて中山地区・双海地区の自家用車の分担率が高くなっています。
- 自転車分担率は、伊予地区では 8%程度となっていますが、中山地区、双海地区では多くが 5%以下と低くなっており、自動車分担率が相対的に高くなっています。



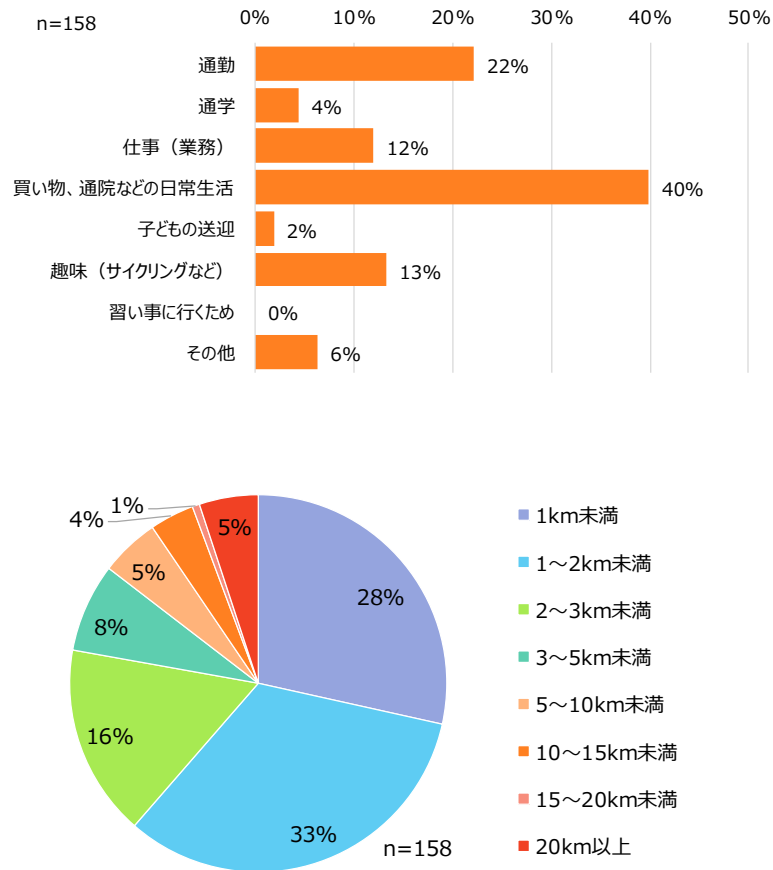
出典: 市民アンケート調査

図 3.7 場面別の交通手段(居住地区別)

(4) 自転車の現状

a) 自転車の主な利用目的、走行距離

○自転車の主な利用目的は「買い物、通院などの日常生活」が最も多く、次いで「通勤」となり、走行距離は2km未満が6割を占めています。

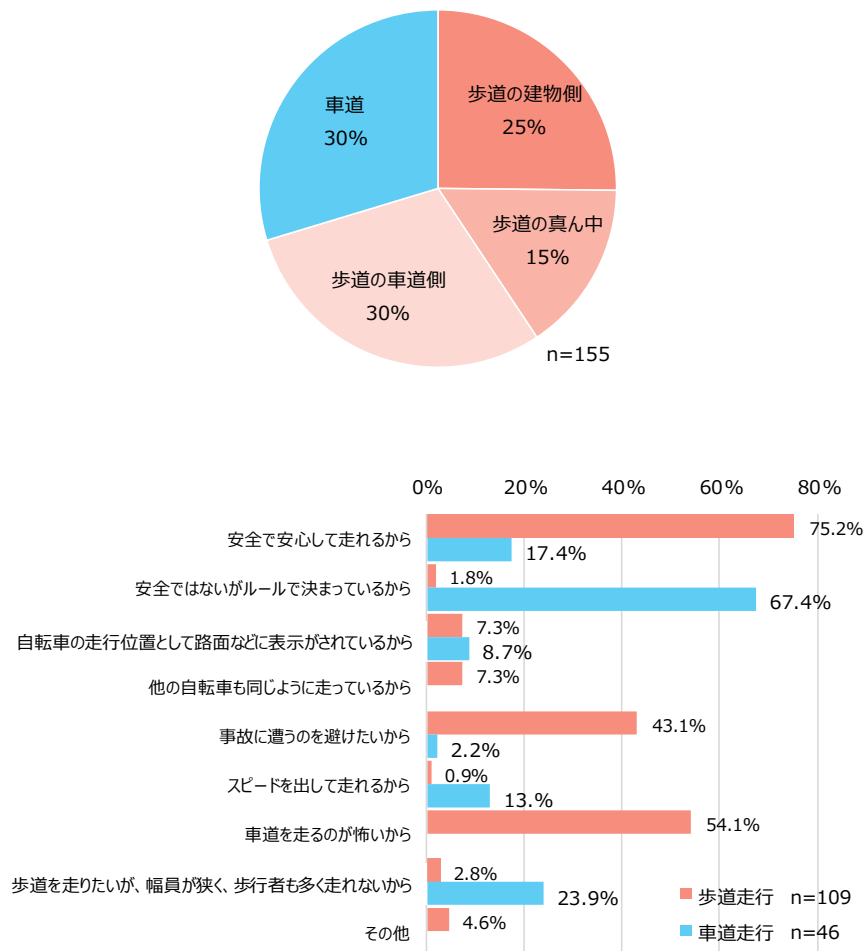


出典：市民アンケート調査

図 3.8 自転車の主な利用目的及び走行距離

b) 自転車利用時の走行場所

- 自転車利用時の走行場所は歩道が約 7 割であり、その理由は「安全で安心して走れるから」「車道を走るのが怖いから」が多くなっています。
- 一方で車道を走行する人の走行理由は「安全ではないがルールで決まっているから」が最も多く、次いで「歩道を走りたいが、幅員が狭く、歩行者も多く走れないから」となっています。

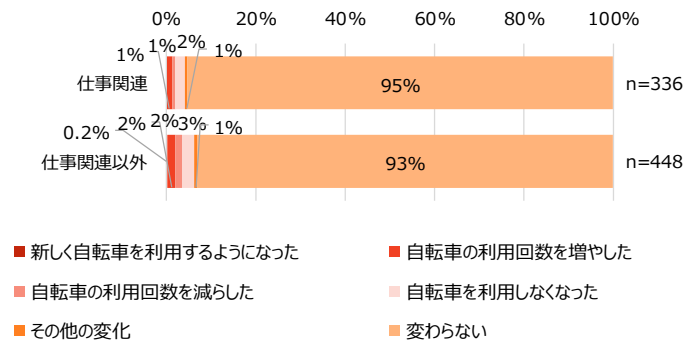


出典: 市民アンケート調査

図 3.9 自転車利用時の走行場所及びその理由

c) 新型コロナウイルスの影響による自転車利用変化

○新型コロナウイルスの影響による自転車利用は「変わらない」が9割以上を占めています。

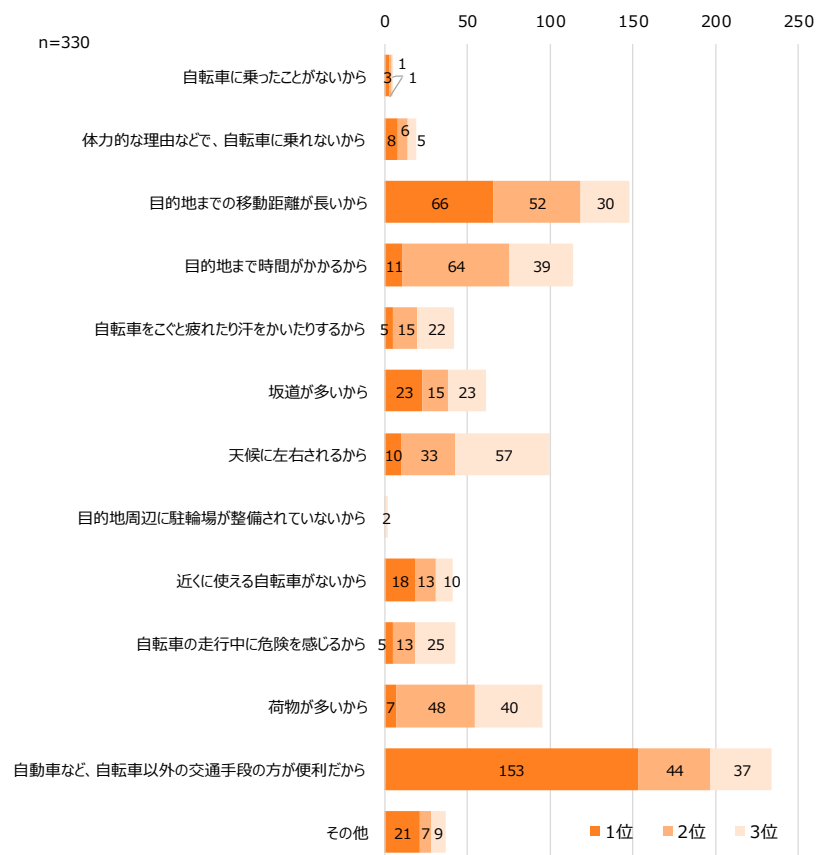


出典: 市民アンケート調査

図 3.10 新型コロナウイルスの影響による自転車利用変化

d) 自転車を利用しない理由

○自転車を利用しない理由は「自動車など、自転車以外の交通手段の方が便利だから」が最も多く、次に「目的地までの移動距離が長いから」が多くなっています。

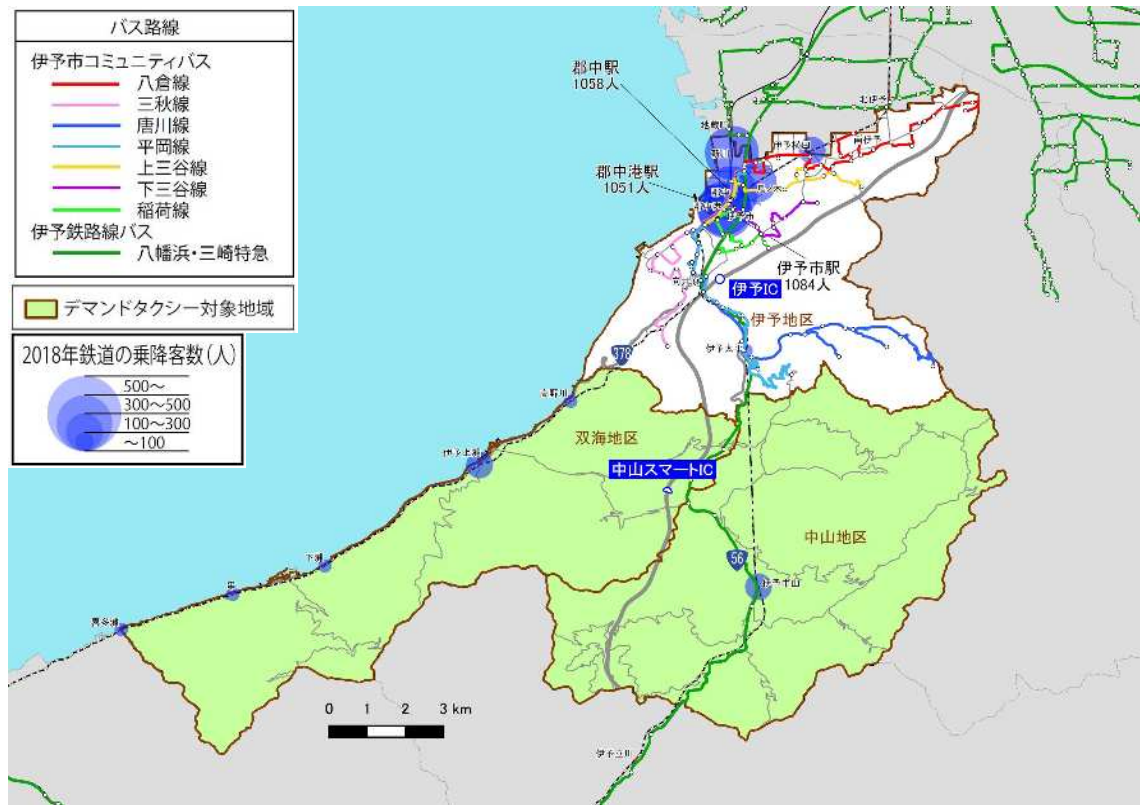


出典: 市民アンケート調査

図 3.11 自転車を利用しない理由

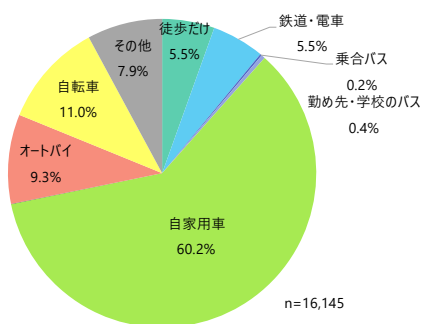
(5) 公共交通の現状

- 通勤・通学における代表交通手段は自家用車が約 60%と最も多く、次に多いのが自転車で 11%を占めています。公共交通である鉄道・電車、乗合バスの分担率は 5.7%と少なくなっています。
- 伊予市内を運行する鉄道路線は JR 予讃線と伊予鉄道郡中線があり、バス路線は伊予市コミュニティバスと伊予鉄路線バスがあります。
- 双海地区、中山地区ではデマンドタクシーが運行しています。



出典:国土数値情報(国土交通省)

図 3.12 公共交通の状況



出典:平成 22 年国勢調査

図 3.13 公共交通の状況



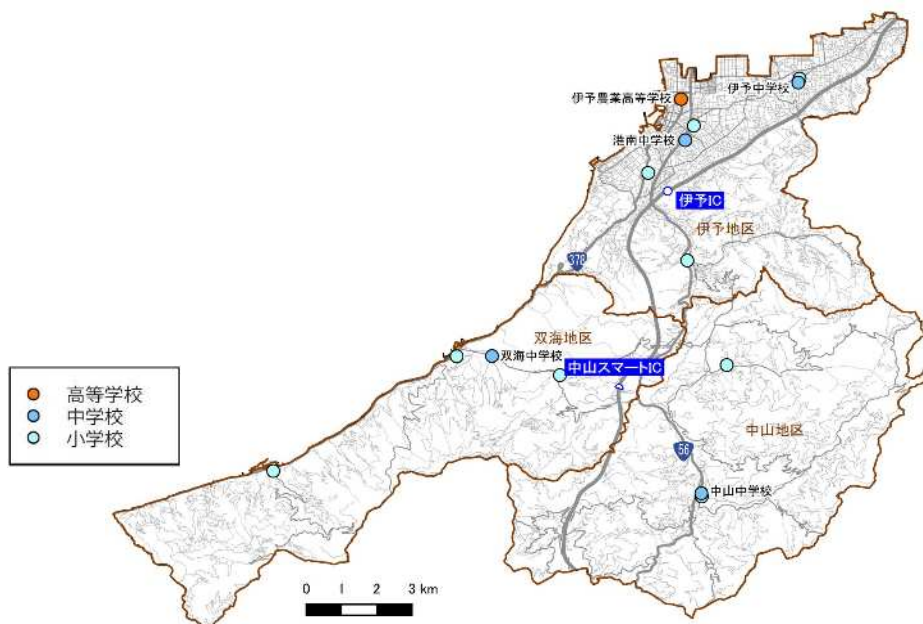
(6) 日常施設、学校の分布

- 大型小売店は、伊予地区北部の国道沿いを中心に分布しています。
- 高等学校は伊予地区に1校あり、中学校は伊予地区に2校、双海地区・中山地区に各1校あります。



出典:伊予病院 HP、伊予市 HP、大型小売店総覧 2020(大型小売店)

図 3.14 日常施設の分布

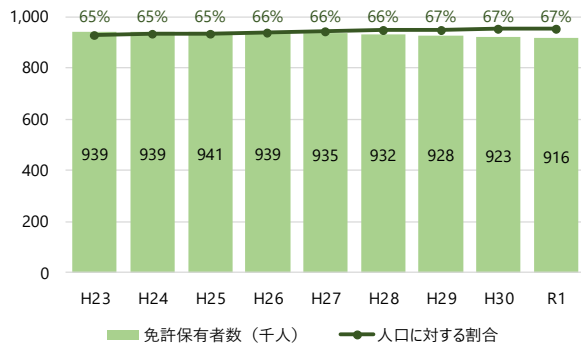


出典:伊予市 HP

図 3.15 学校の分布

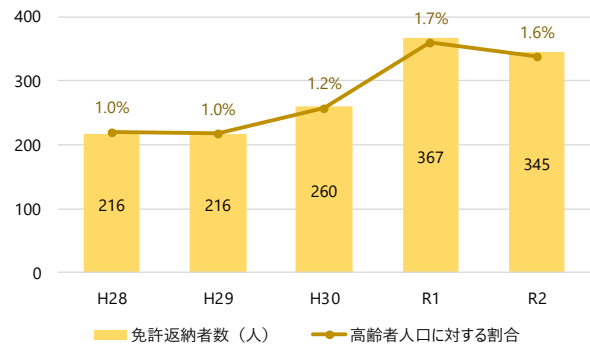
(7) 免許返納状況

- 愛媛県の人口に対する免許保有者数はほぼ横ばいで推移しています。
- 伊予市の免許返納者数は増加傾向を示しています。
- 免許返納後に自転車を利用したいという回答は約 3 割で、利用しない場合の移動手段は「徒歩」、「コミュニティバス」、「家族・知人などによる送迎」が多くなっています。



出典: 運転免許統計[警察庁]

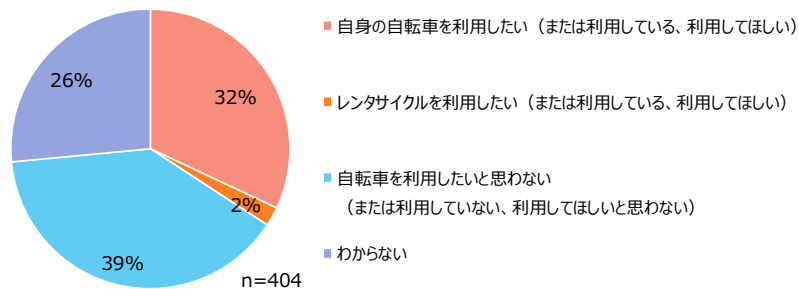
図 3.16 愛媛県の免許保有者の推移



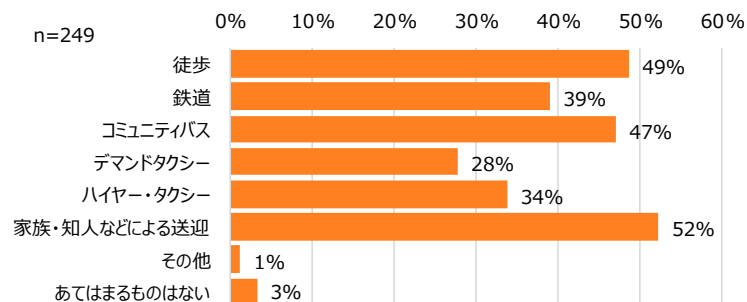
出典: 伊予警察署

図 3.17 伊予署管内の免許返納者数の推移

自転車利用意向



自転車を利用しない場合の移動手段意向



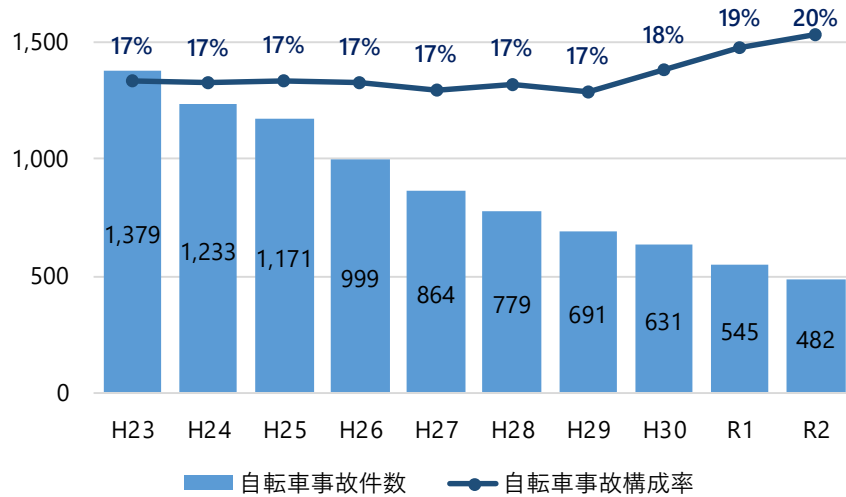
出典: 市民アンケート調査

図 3.18 免許返納後の自転車利用意向及び利用しない場合の移動手段意向

2) 伊予市の交通安全

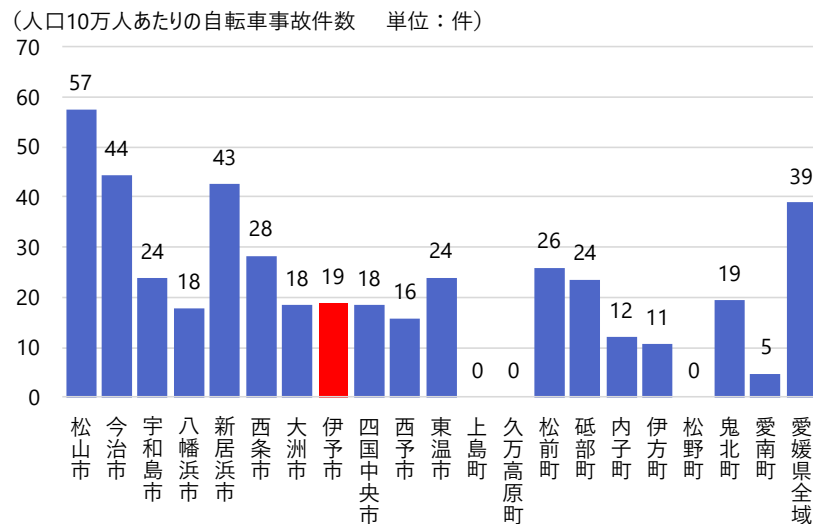
(1) 自転車事故件数、死傷者数

- 愛媛県内の自転車事故件数は年々減少傾向であるが、全事故に対する自転車事故構成率は近年微増傾向にあります。
- 伊予市の自転車事故件数は、愛媛県内他市町と比べて中程度となっています。



出典：交通事故統計 豆統計[愛媛県警察本部]

図 3.19 愛媛県の自転車事故件数の推移

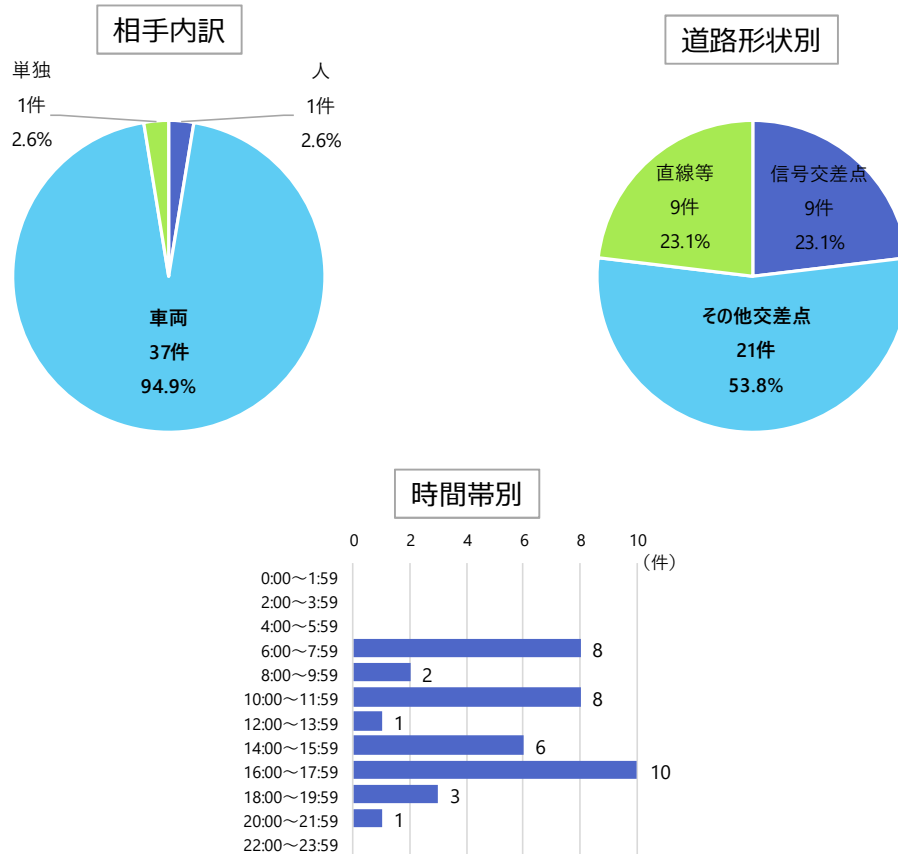


出典：平成31年/令和元年 交通事故統計情報のオープンデータ [警察庁]

図 3.20 愛媛県内他市町との人口あたり自転車事故件数の比較

(2) 自転車事故の状況

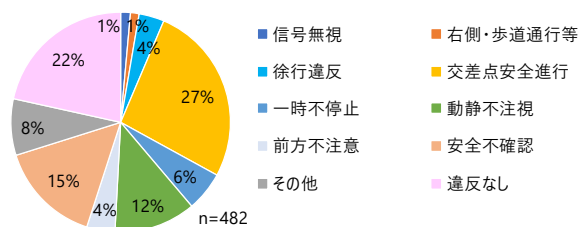
- 伊予市内自転車事故の相手は、ほとんどが車両(自動車、自転車等)となっています。
- 伊予市内自転車事故は、交差点が約 8 割を占め、朝夕の通勤・通学時間帯に多くなっています。



出典:伊予警察署提供データ 平成 28 年 1 月 1 日～令和 2 年 12 月 31 日

図 3.21 伊予市の自転車事故の状況

【参考】 自転車事故の原因には法令違反がある場合が多くなっています。

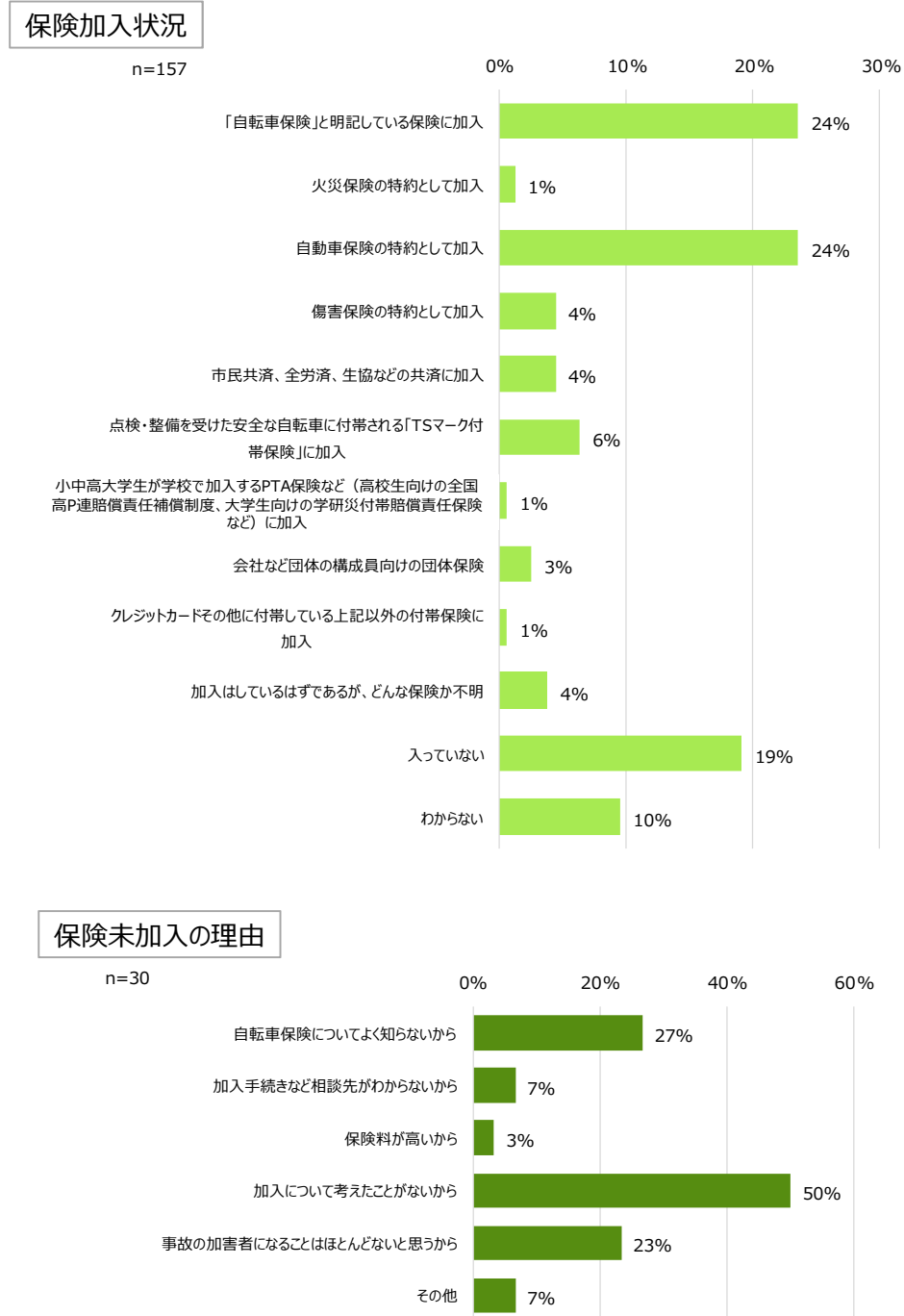


出典:令和 2 年交通事故統計 豆統計[愛媛県警察本部]

図 3.22 愛媛県の自転車事故の原因内訳

(3) 自転車保険加入状況

- 保険加入状況は「自転車保険」、「自動車保険の特約として加入」が多く、次に「入っていない」が多くなっています。
- 保険未加入の理由は「加入について考えたことがないから」が最も多くなっています。

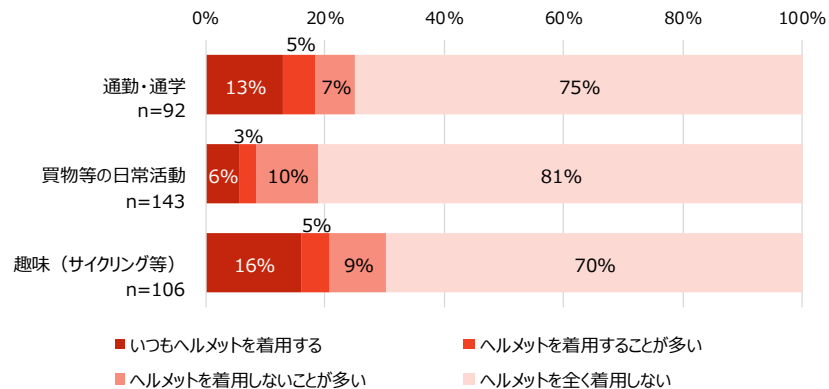


出典：市民アンケート調査

図 3.23 保険加入状況及び保険未加入の理由

(4) ヘルメット着用

○ヘルメットは「全く着用しない」が最も多く、どの目的でも7割以上を占めています。

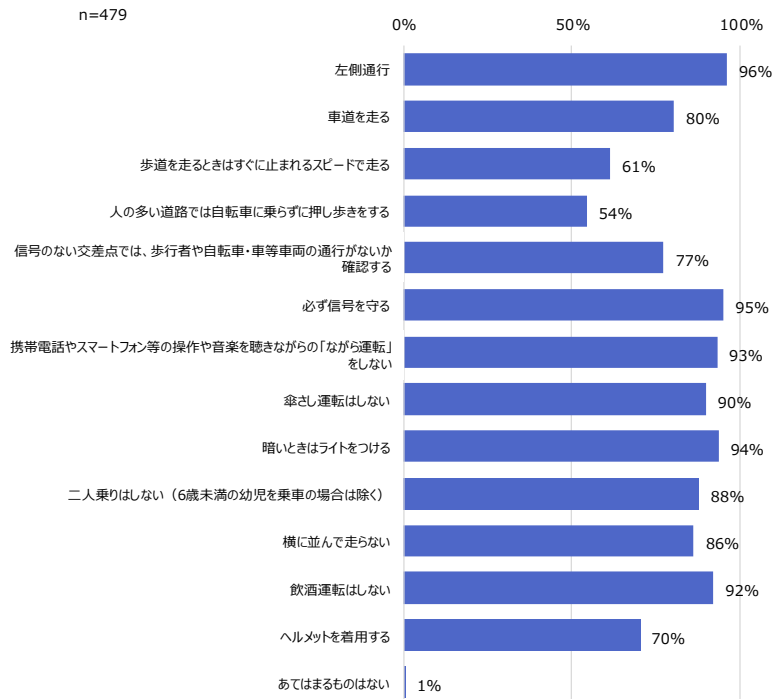


出典：市民アンケート調査

図 3.24 ヘルメット着用有無

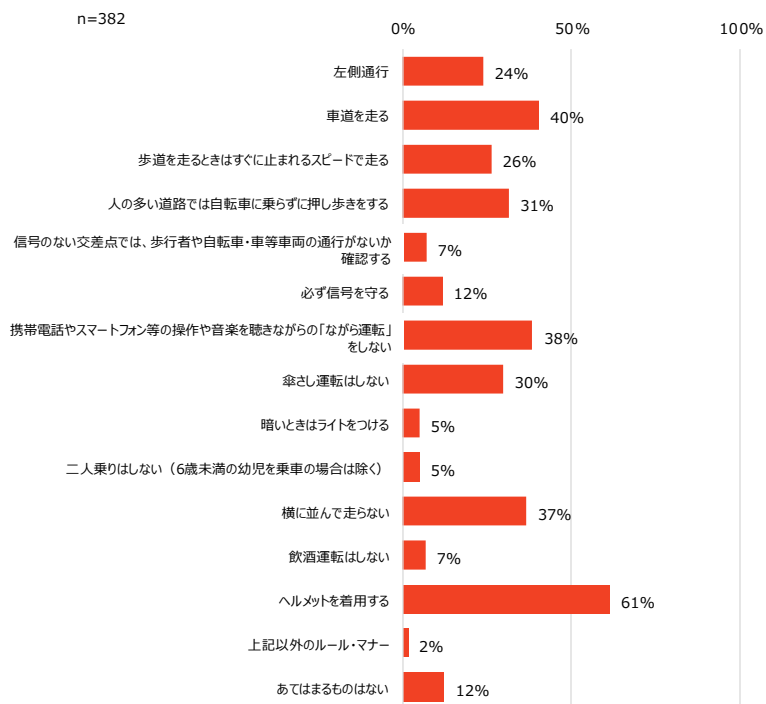
(5) 交通ルール

- 知っている交通ルールは多くが8割を超えていますが、「人の多い道路では自転車に乗らずに押し歩きをする」、「歩道を走るときはすぐに止まれるスピードで走る」の認知度が相対的に低くなっています。
- 守っていないルールは「ヘルメットを着用する」が最も多く、次いで「車道を走る」となっています。
- 「ながら運転」や「傘さし運転」、「横に並んで走らない」は、認知度が高い割に守っていない割合が高くなっています。



出典：市民アンケート調査

図 3.25 知っている交通ルール



出典：市民アンケート調査

図 3.26 守っていない交通ルール

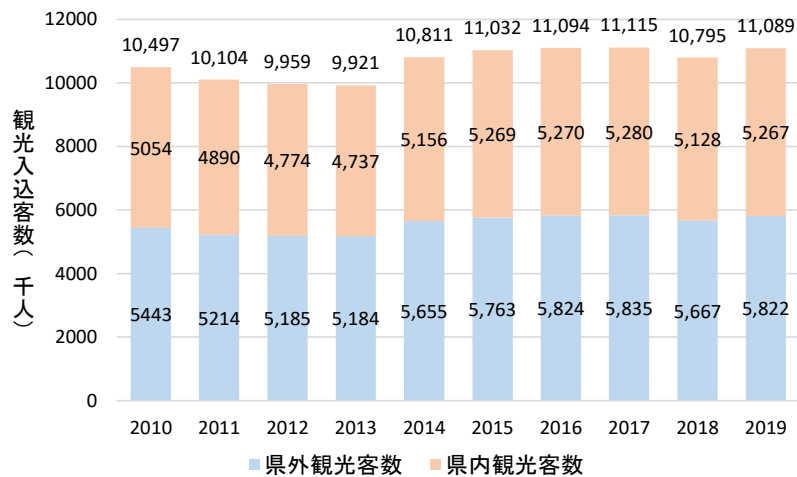


3) 伊予市の観光・サイクルツーリズム

(1) 観光入込客数

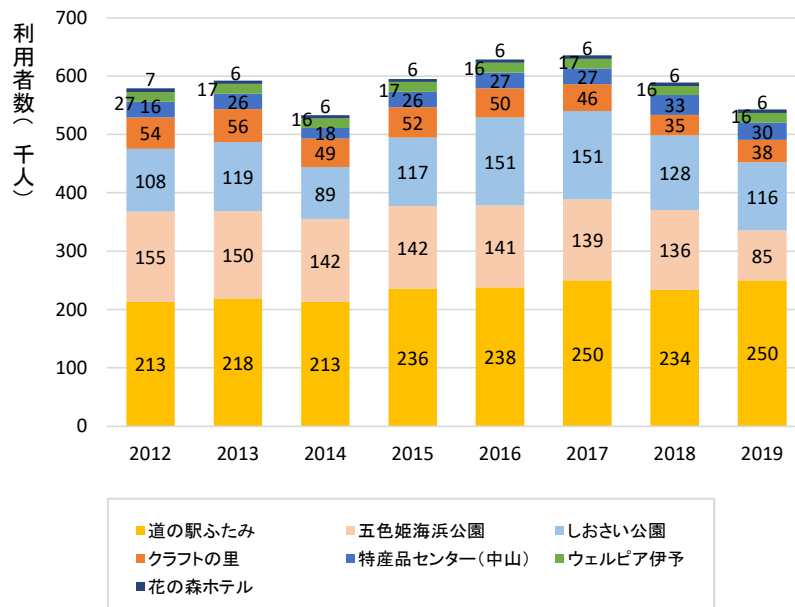
- 松山圏域※の観光入込客数は 2013 年～2015 年は微増傾向にありましたが、2015 年以降は横ばいで、1,100 万人前後で推移しています。
- 伊予市の主要観光施設の利用者数は、2014 年～2016 年は増加していましたが、2017 年以降は減少傾向となっています。

※松山圏域：松山市、伊予市、東温市、久万高原町、松前町、砥部町



出典：観光客数とその消費額[愛媛県]

図 3.27 松山圏域の観光入込客数の推移



出典：観光客数とその消費額[愛媛県]

図 3.28 伊予市の主要観光施設の利用者数推移

(2) 観光地の分布

○観光資源は、伊予市内全域に点在しています。



出典：観光客数とその消費額[愛媛県](利用者数)

図 3.29 観光資源

(3) 観光移動特性

a) 観光地滞在箇所数、伊予市来訪者の居住地

- 観光地滞在箇所数は、コロナ前・後ともに 1 箇所が約 75%を占め、周遊が少なくなっています。
- コロナ前と比較してコロナ後では全体的に来訪者が減っており、構成比では四国3県の割合が減り、松山市・大洲市等近くからの割合が増えています。
- 愛媛県内、県外比率で見ても県内の割合が増え、県外の割合が減っています。

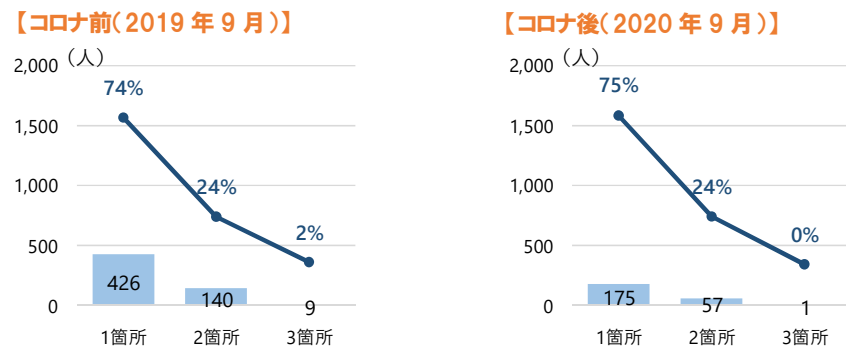


図 3.30 一人当たりの観光地滞在箇所数

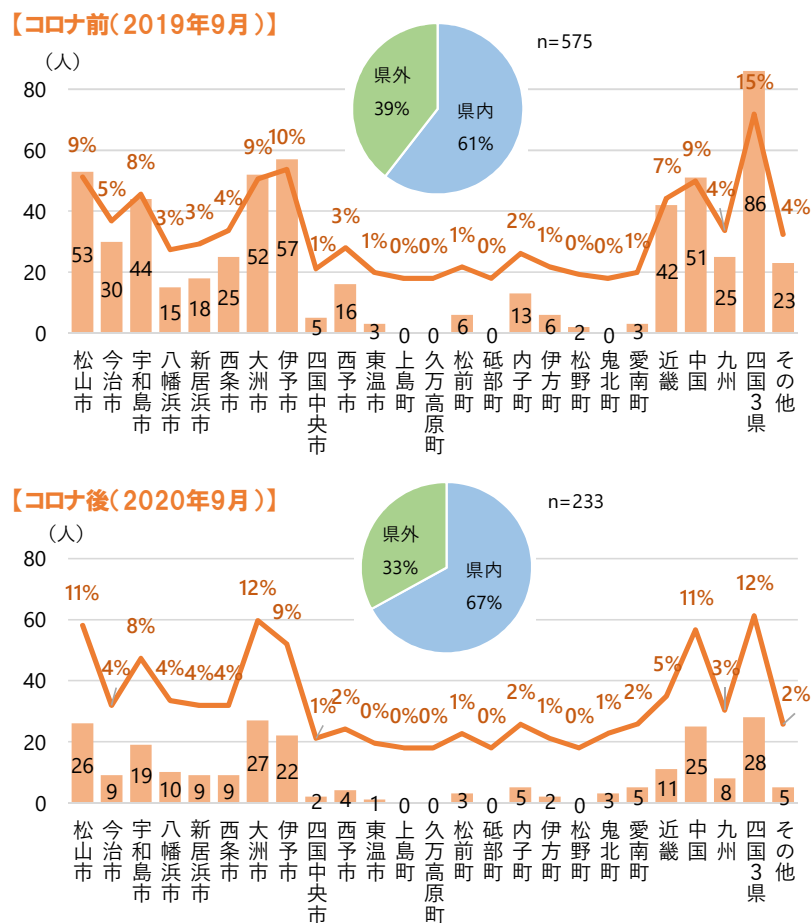
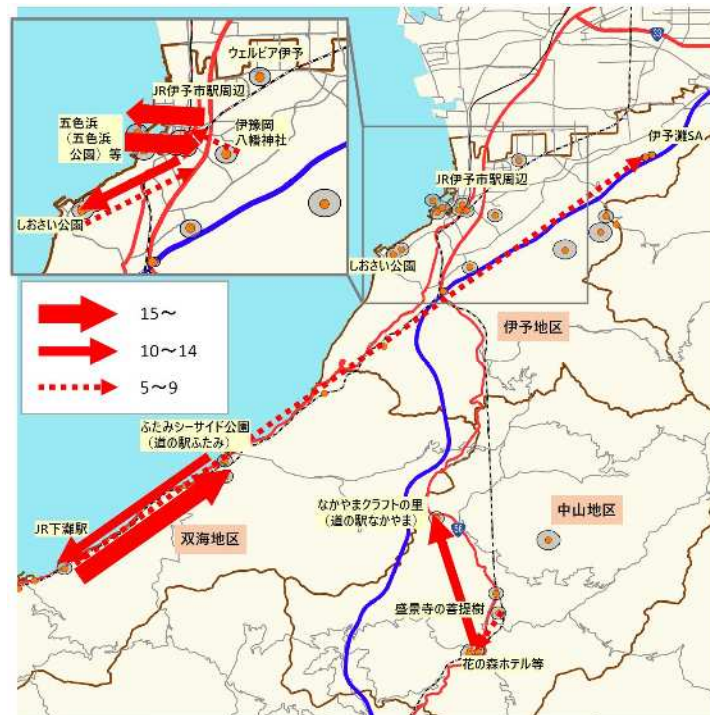


図 3.31 伊予市来訪者の居住地

b) 観光地間の流動

- コロナ後は人の移動が少なく、観光地間の流動も少なくなっています。
- 伊予地区、双海地区、中山地区、それぞれ地区内の移動が多く、地区を跨ぐ移動は少なくなっています。

【コロナ前(2019年9月)】



【コロナ後(2020年9月)】

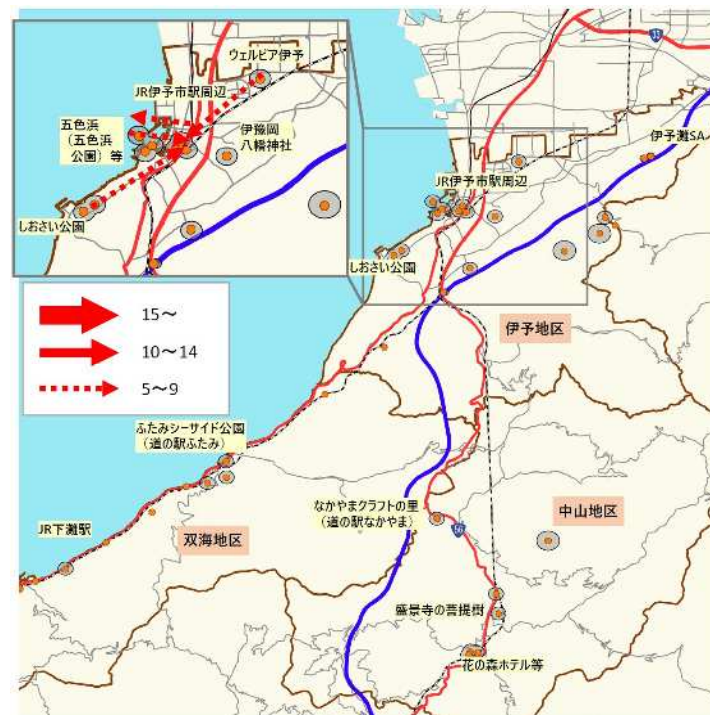


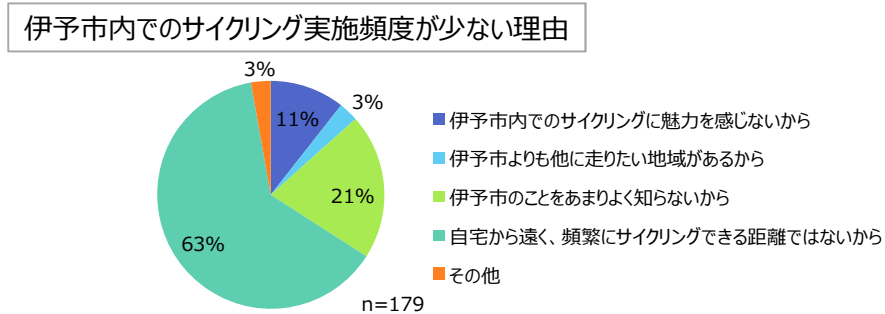
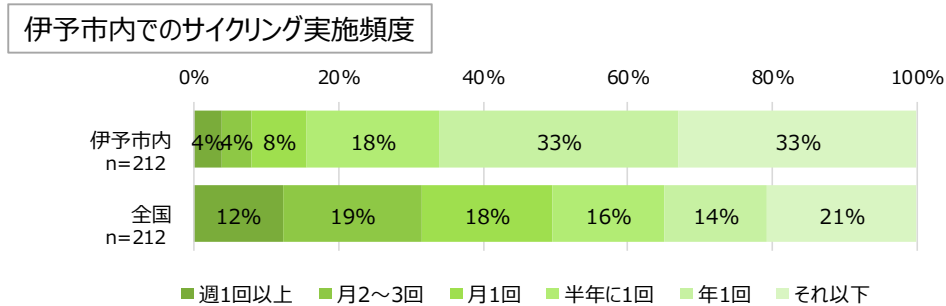
図 3.32 観光地間の流動



(4) サイクリング状況

a) 伊予市内でのサイクリング実施頻度

○伊予市外居住者の伊予市内でのサイクリング実施頻度は半年に1回以下が8割以上であり、その理由は、距離に関係ない理由(魅力を感じない、知らない)が約3割となっています。



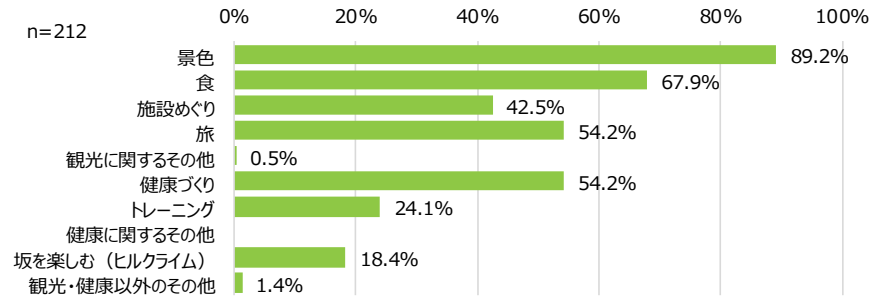
出典: 自転車利用者を対象としたアンケート調査

図 3.33 伊予市内でのサイクリング頻度及びサイクリング頻度が少ない理由

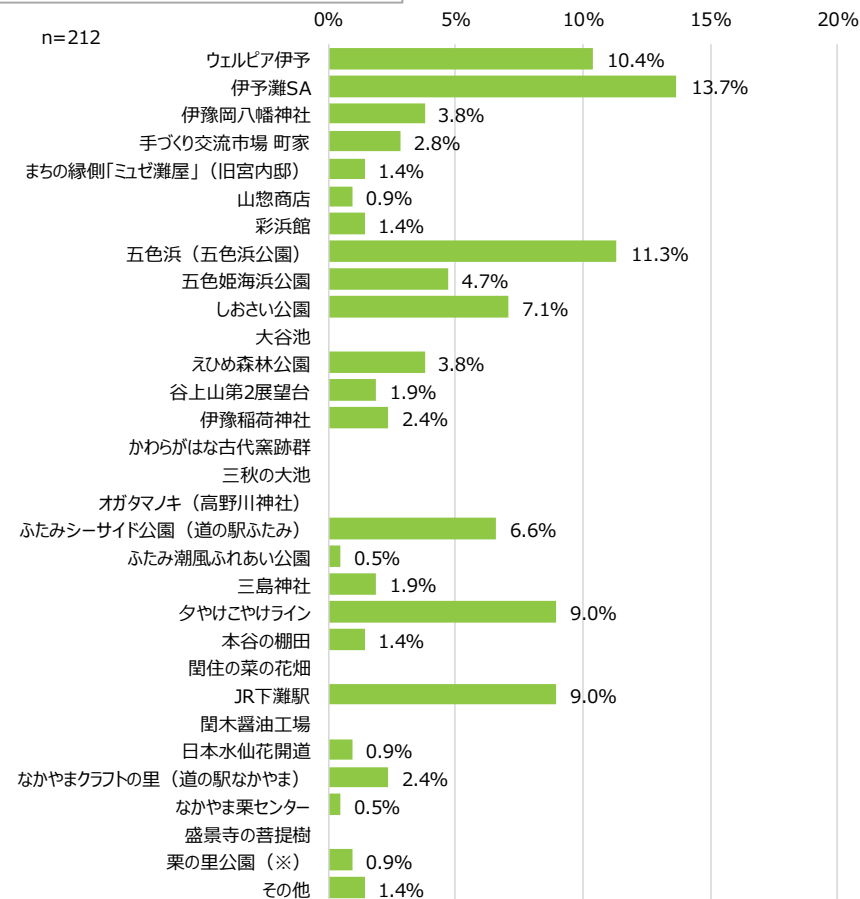
b) 伊予市内でのサイクリングの主な目的、目的地

○伊予市内でのサイクリングの主な目的は、「景色」、「食」が多く、主な目的地は「伊予灘 SA」、「五色浜(五色浜公園)」、「ウェルピア伊予」と伊予地区内が多くなっています。

伊予市内でのサイクリングの主な目的



伊予市内でのサイクリングの主な目的地



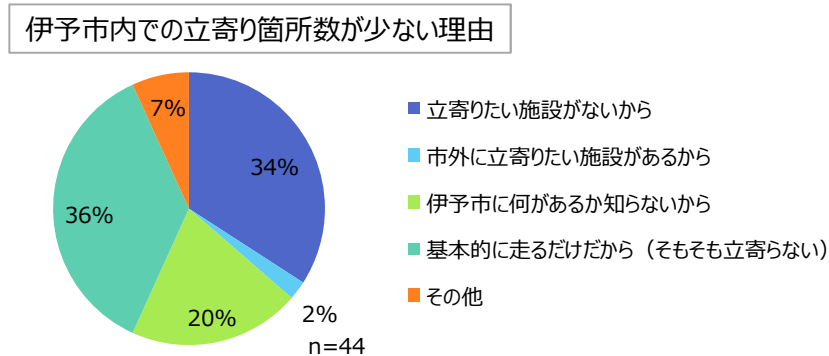
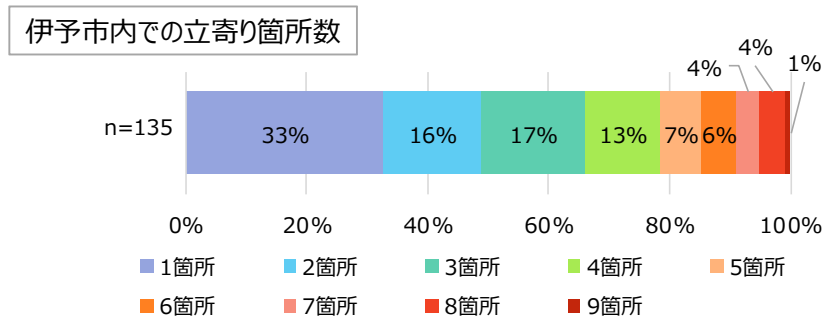
※「栗の里公園」には、「なかやまフラワーハウス」および「花の森ホテル」を含む

出典: 自転車利用者を対象としたアンケート調査

図 3.34 伊予市内でのサイクリングの主な目的及び目的地

c) 伊予市内での立寄り箇所数

○伊予市内での立寄り箇所数は1箇所が約3割と最も多く、その理由は走るだけを除くと、「立寄りたい施設がないから」、「伊予市に何があるか知らないから」が多くなっています。

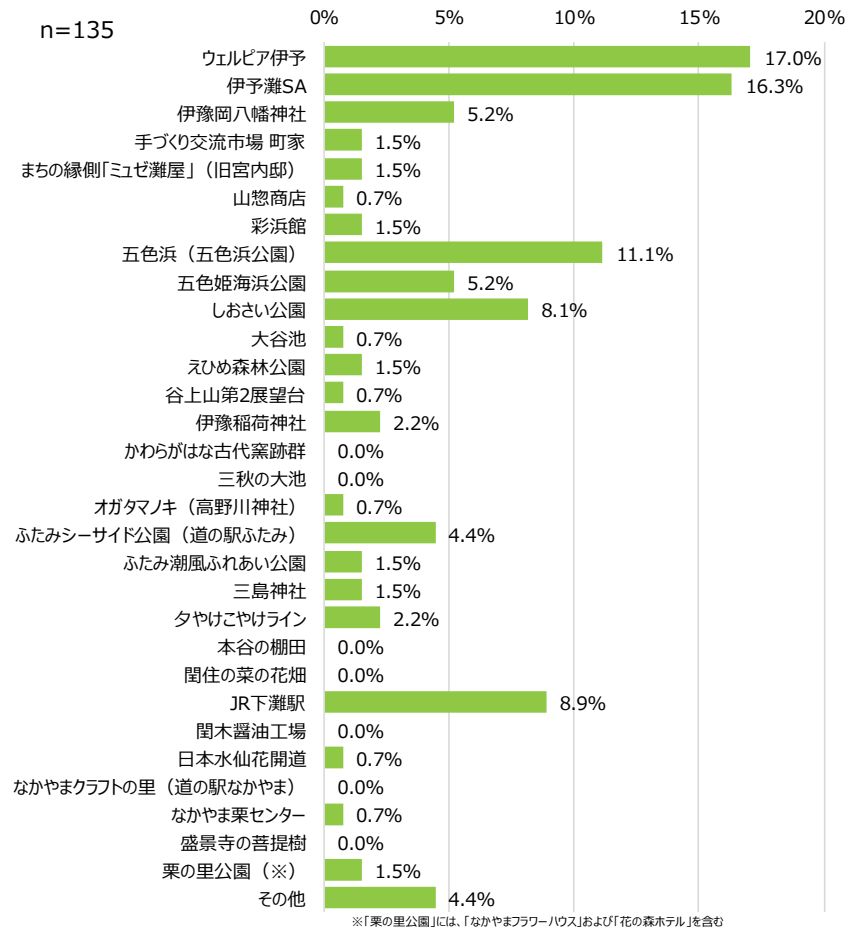


出典：自転車利用者を対象としたアンケート調査

図 3.35 伊予市内での立寄り箇所数及び立寄り箇所数が少ない理由

d) 伊予市内でのサイクリングの最初の立寄り地

○伊予市内でのサイクリングの最初の立寄り地は主な目的地と同様に、「伊予灘 SA」、「五色浜（五色浜公園）」、「ウェルピア伊予」が多くなっています。

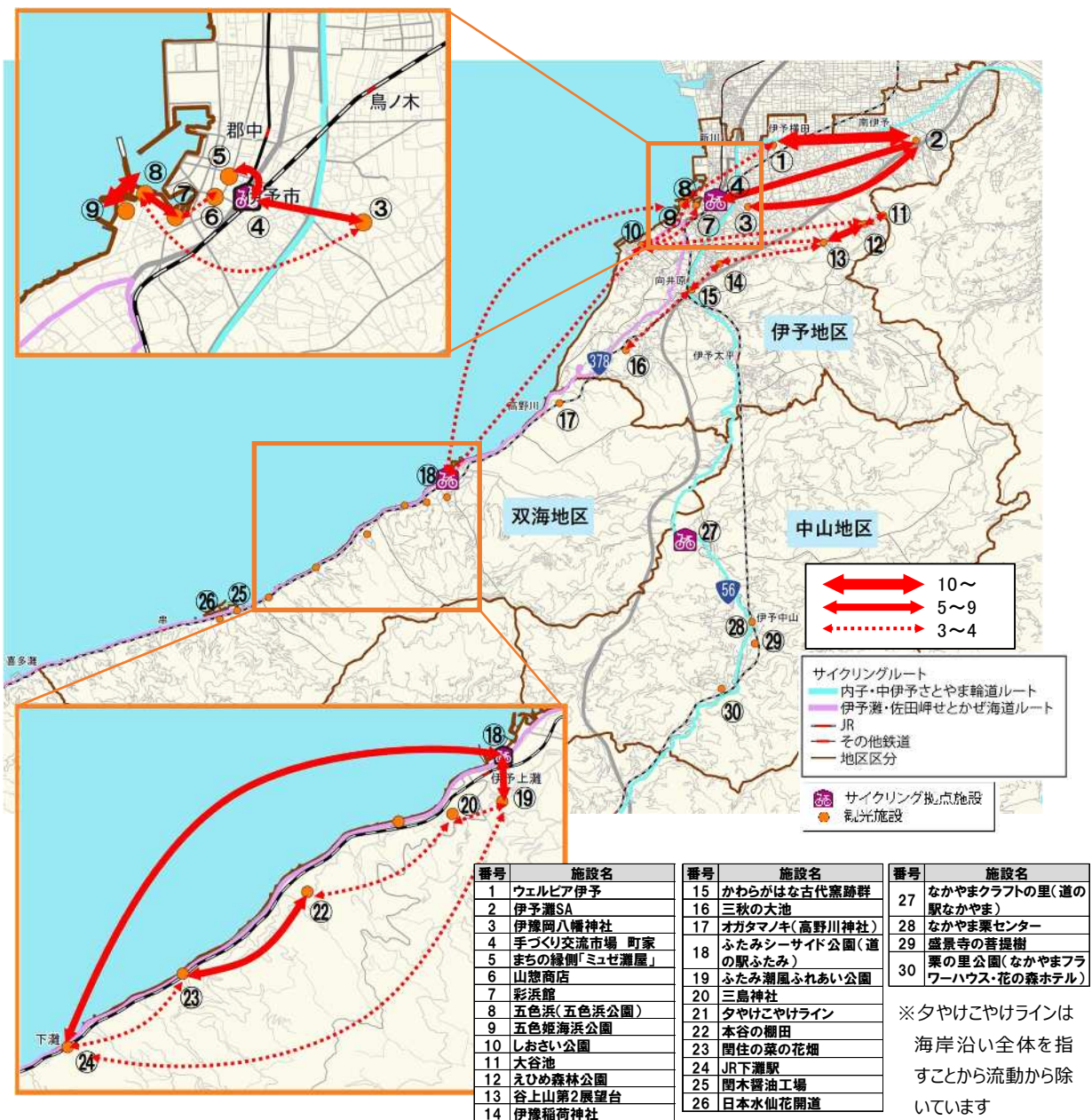


出典：自転車利用者を対象としたアンケート調査

図 3.36 伊予市内でのサイクリングの最初の立寄り地

e) 伊予市内でのサイクリングの流動

○伊予地区、双海地区、中山地区、それぞれ地区内の移動が多く、地区に跨る移動は少なくなっています。

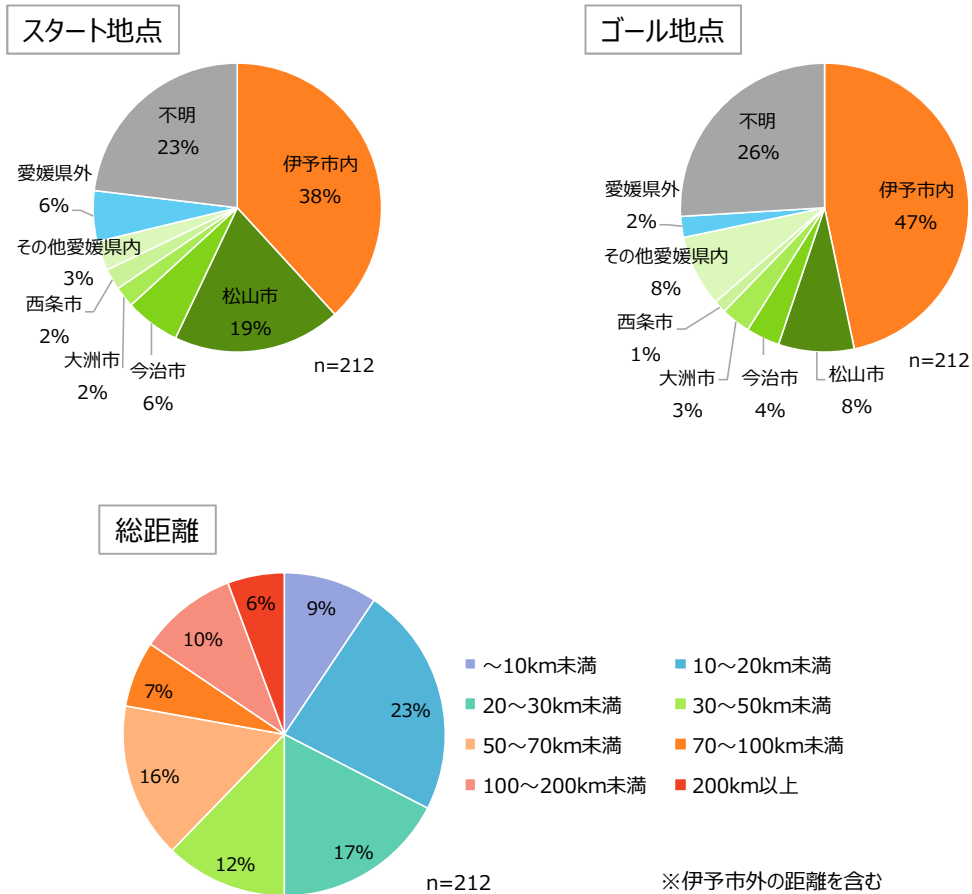


出典: 自転車利用者を対象としたアンケート調査

図 3.37 伊予市内でのサイクリングの流動

f) 伊予市内でのサイクリングのスタート地点、ゴール地点、総距離

- 伊予市内でのサイクリングのスタート地点、ゴール地点ともに伊予市内が最も多く、次いで松山市となっています。
- 総距離は 10～20km 未満が最も多くなっています。



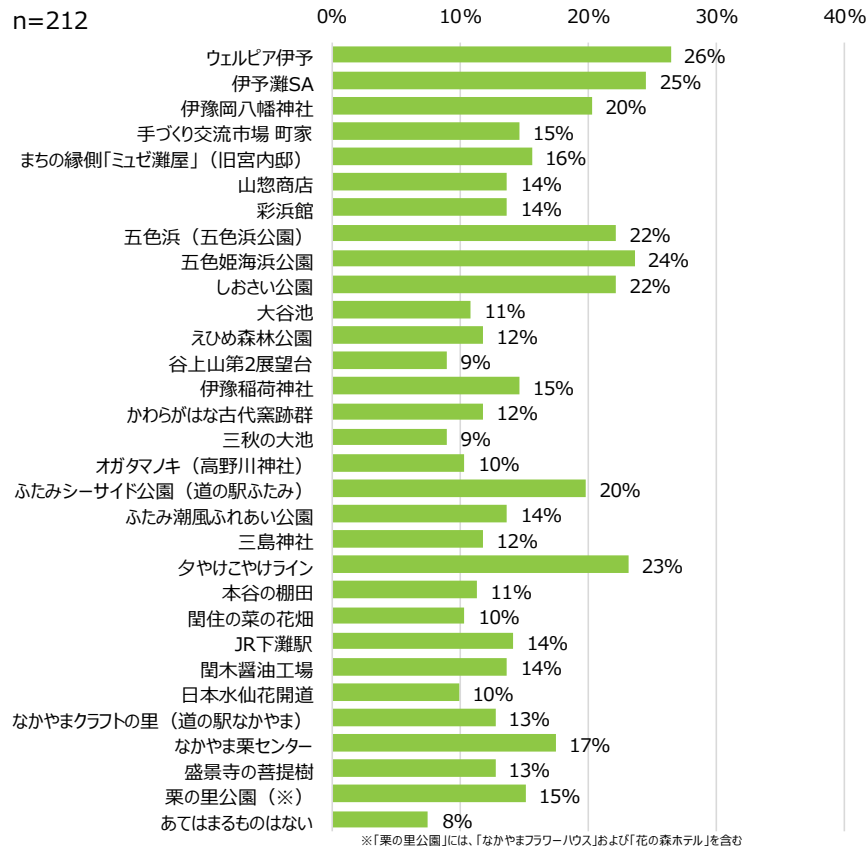
出典：自転車利用者を対象としたアンケート調査

図 3.38 伊予市内でのサイクリングのスタート地点、ゴール地点及び総距離

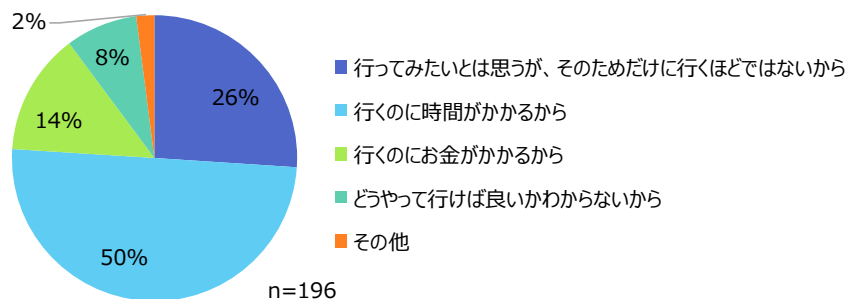
g) 伊予市内でのサイクリングの意向

- 伊予市内で行ってみたい地域・施設は「ウェルピア伊予」、「伊予灘 SA」が多く、「五色姫海浜公園」や「ふたみシーサイド公園（道の駅ふたみ）」等、伊予灘沿いの施設も多くなっています。
- 上記施設等に今まで行かなかった理由は「行くのに時間がかかるから」が最も多く半数を占める一方で、「行ってみたいと思うが、そのためだけに行くほどではないから」が約3割となっています。

伊予市内でのサイクリングの意向



上記施設に今まで行かなかった理由

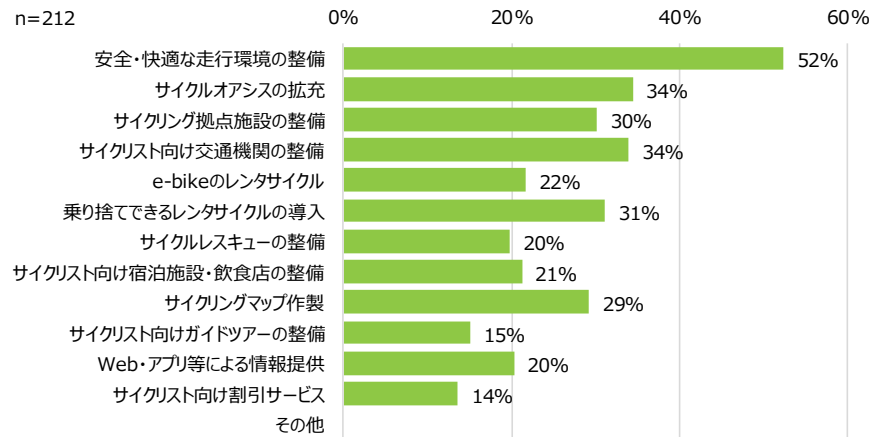


出典：自転車利用者を対象としたアンケート調査

図 3.39 伊予市内でのサイクリングの意向及び今まで行かなかった理由

h) 伊予市内でサイクリングを実施するために必要な取組み

○伊予市内でサイクリングを実施するために必要な取組みは「安全・快適な走行環境の整備」が最も多く、「サイクルオアシスの拡充」、「サイクリスト向け交通機関の整備」等も多くなっています。



出典：自転車利用者を対象としたアンケート調査

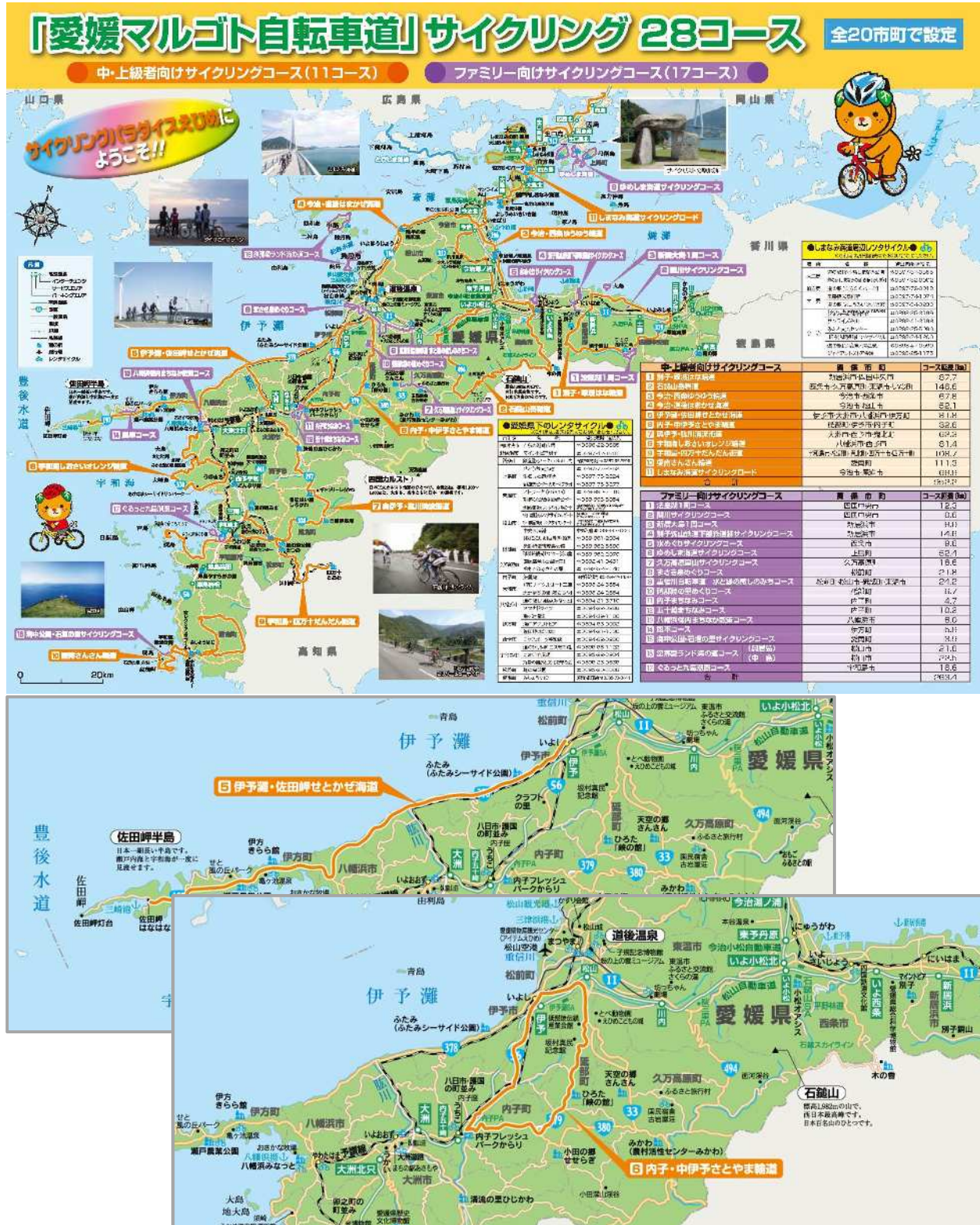
図 3.40 伊予市内でサイクリングを実施するために必要な取組み



(5) サイクリングマップ・コース

a) 愛媛マルゴト自転車道

○愛媛マルゴト自転車道 28 コースの内、「伊予灘・佐田岬せとかぜ海道」と「内子・中伊予さとやま輪道」が伊予市を通過しています。



出典: 愛媛マルゴト自転車道 HP

図 3.41 愛媛マルゴト自転車道

b) 四国一周サイクリング

○四国一周サイクリングでのトリップスポットとして下灘駅や夕やけこやけラインが紹介されています。



出典:四国一周サイクリング HP

図 3.42 四国一周サイクリング



(6) 中予サイクルオアシス

○中予地域を訪れたサイクリストが安心してサイクリングが楽しめるよう、気軽に立ち寄って休憩ができ、地域の人々との交流が図れる「おもてなし」の場所としてサイクルオアシスを整備しています。



伊予市	11
松山市	31
東温市	13
久万高原町	15
松前町	6
砥部町	8
中予サイクルオアシス計	84
愛媛県内サイクルオアシス計 (広島県尾道市内施設を含む)	427

(令和3年12月31日現在)



図 3.43 伊予市内の中予サイクルオアシス



図 3.44 道の駅なかやま

出典: 愛媛県 HP、道の駅なかやま HP

(7) 道の駅リニューアル

○道の駅ふたみは、愛媛マルゴト自転車道や四国一周サイクリングのコース沿いにあり、「中予サイクルオアシス」登録施設としてサイクリスト向けの各種サービスを提供、サイクルツーリズムを推進しています。

○2021年5月28日にリニューアルオープンしました。伊予市の特産品販売だけでなく、夏には美しい海で海水浴、夕方には瀬戸内海に沈む美しい夕日が楽しめます。



出典: 愛媛県 HP (中予サイクルオアシス)、道の駅ふたみ HP

図 3.45 道の駅ふたみ

(8) e-bike の導入

a) e-bike のレンタサイクル

○2021 年 6 月より e-bike のレンタサイクルを開始しました。市内の主要施設 5 箇所でレンタルできます。

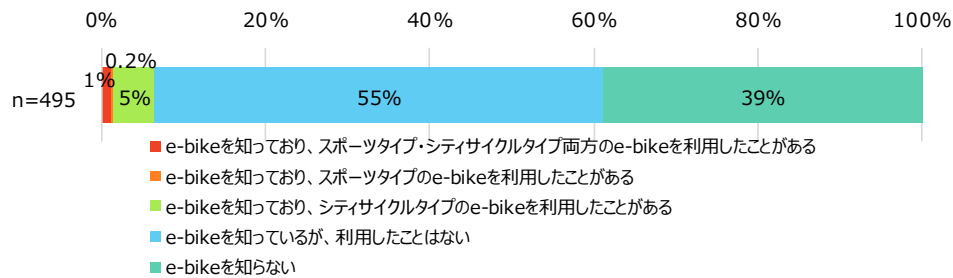
○車種はスポーツタイプ(クロスバイク)とシティサイクルタイプの 2 種類用意しています。



図 3.46 e-bike のレンタサイクル

b) e-bike の認知・利用経験

○「知っているが、利用したことはない」が半数以上を占め、「知らない」が約 4 割となっています。

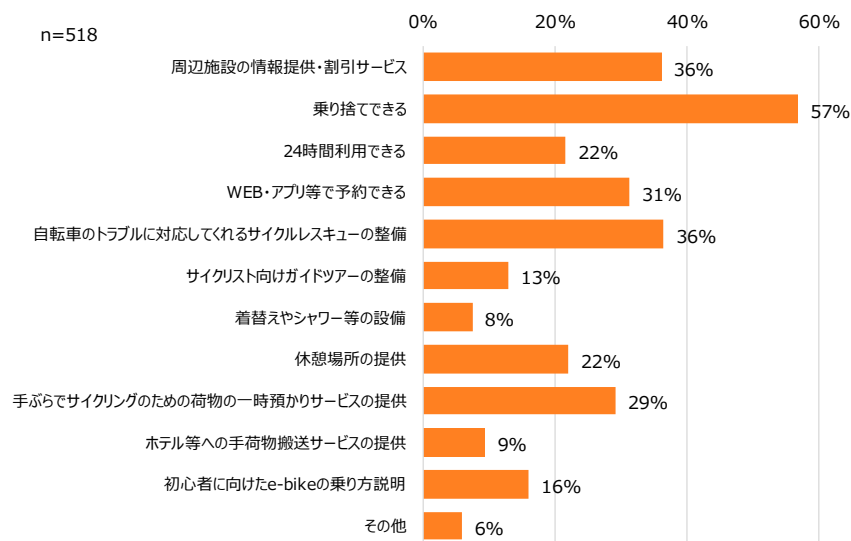


出典：市民アンケート調査

図 3.47 e-bike の認知・利用経験

c) e-bike のレンタサイクルに求めるサービス

○「乗り捨てできる」が最も多く、次いで「周辺施設の情報提供・割引サービス」、「自転車のトラブルに対応してくれるサイクルレスキューの整備」となっています。

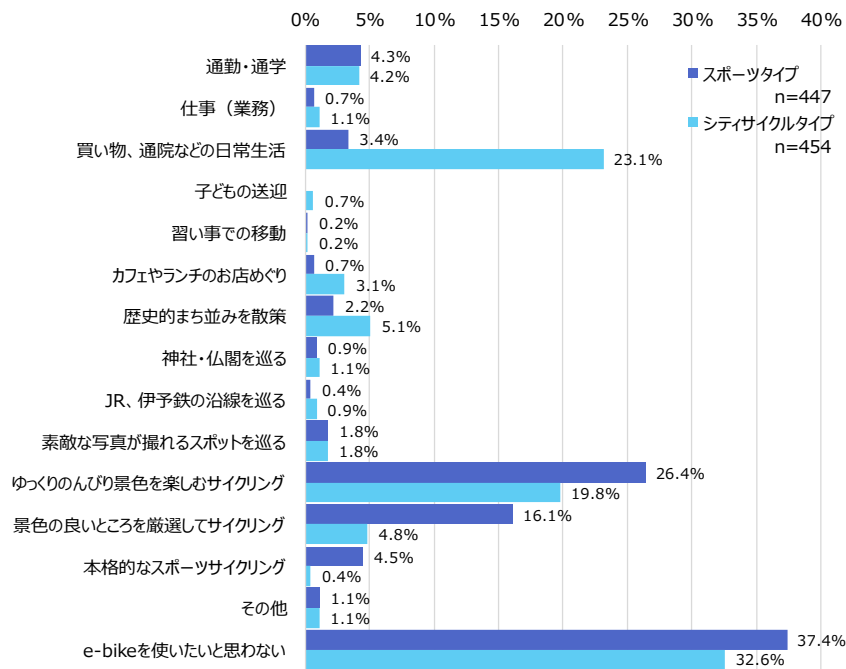


出典：市民アンケート調査

図 3.48 e-bike のレンタサイクルに求めるサービス

d) e-bike のレンタサイクルを利用したい場面

○スポーツタイプではサイクリング、シティサイクルタイプでは日常生活やサイクリングが多くなっています。

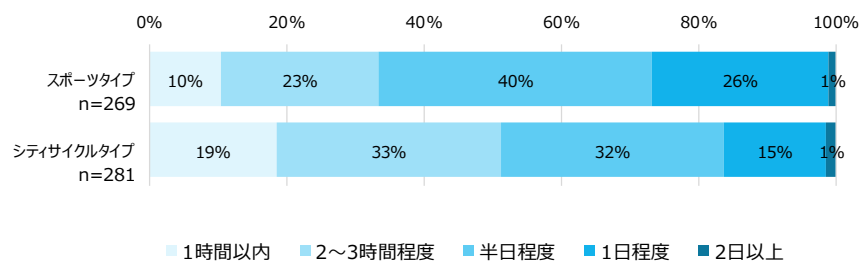


出典：市民アンケート調査

図 3.49 e-bike のレンタサイクルを利用したい場面

e) e-bike のレンタサイクルを利用したい期間

○スポーツタイプは半日以上が多く、シティサイクルタイプは 2～3 時間以内が多くなっています。



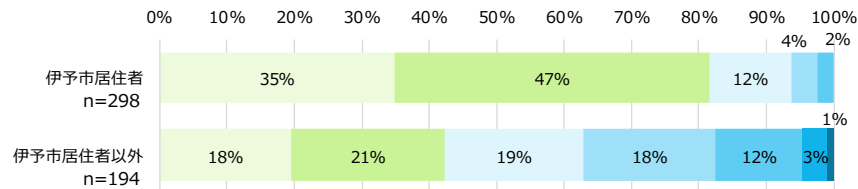
出典：市民アンケート調査

図 3.50 e-bike のレンタサイクルを利用したい期間

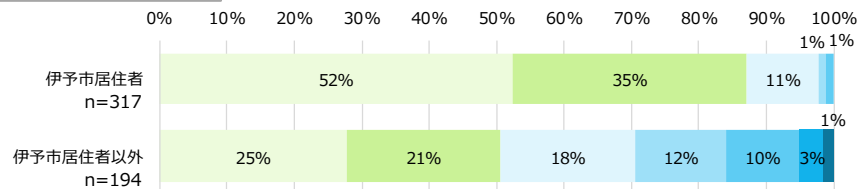
f) e-bike のレンタサイクルの利用上限額

- スポーツタイプ、シティサイクルタイプともに伊予市居住者以外と比較して、伊予市居住者の方が利用上限額は低くなる傾向にあり、1 時間あたり 300 円以内が 8 割以上となっています。
- スポーツタイプとシティサイクルタイプを比較すると、スポーツタイプの方が利用上限額は高くなっています。

スポーツタイプ



シティサイクルタイプ



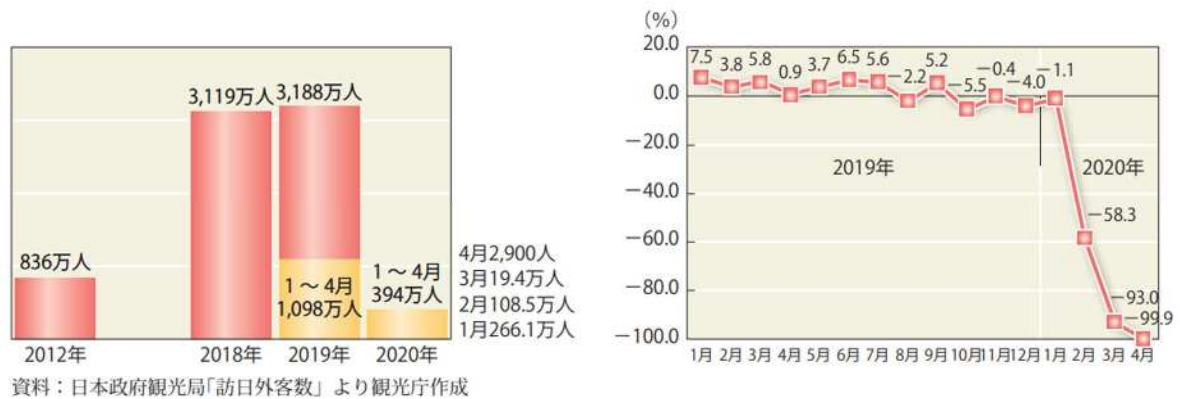
出典：市民アンケート調査（伊予市居住者）、自転車利用者を対象としたアンケート調査（伊予市居住者以外）

図 3.51 e-bike のレンタサイクルの利用上限額

4) 新型コロナウイルス感染症拡大による観光への影響

(1) 訪日外国人旅行者数、旅行消費額

- 入国制限等により、2020 年(令和 2 年)3 月の訪日外国人旅行者数は前年同月比 93.0%減、同年 4 月は前年同月比 99.9%減と外国人旅行者が大幅に減少しています。
- 訪日外国人旅行者の減少に伴い、2020 年(令和 2 年)1-3 月期の訪日外国人旅行消費額は、前年同期比 41.6%減の 6,727 億円と大きく減少しています。



出典: 令和 2 年版 観光白書

図 3.52 訪日外国人旅行者数及び前年同月比の推移

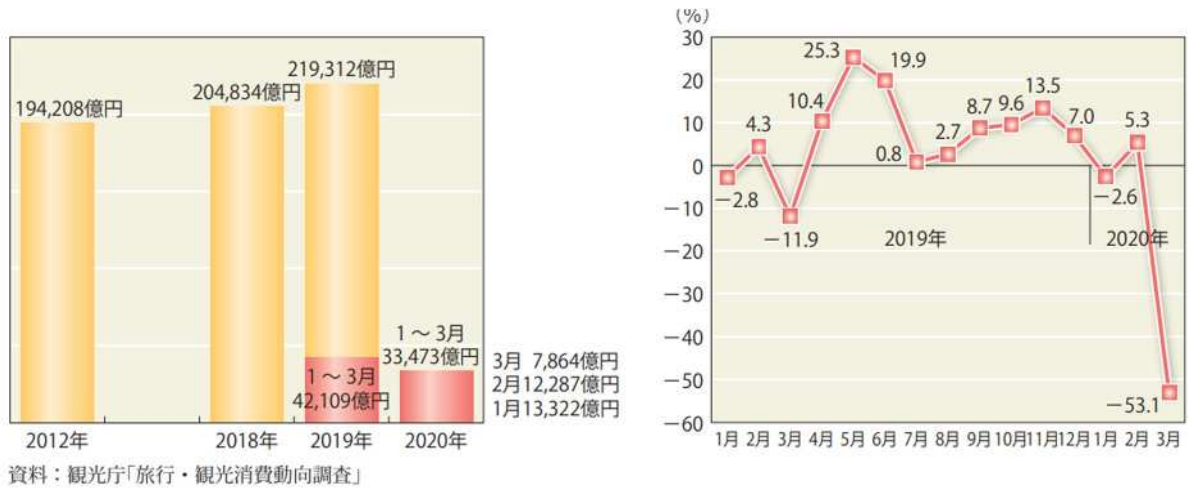


出典: 令和 2 年版 観光白書

図 3.53 訪日外国人旅行消費額及び前年同期比の推移

(2) 日本人の国内旅行消費額

○日本人の国内旅行消費額は、3月は前年同月比53.1%減の7,864億円となり、2010年(平成22年)の現行調査開始以降最大の減少となっています。



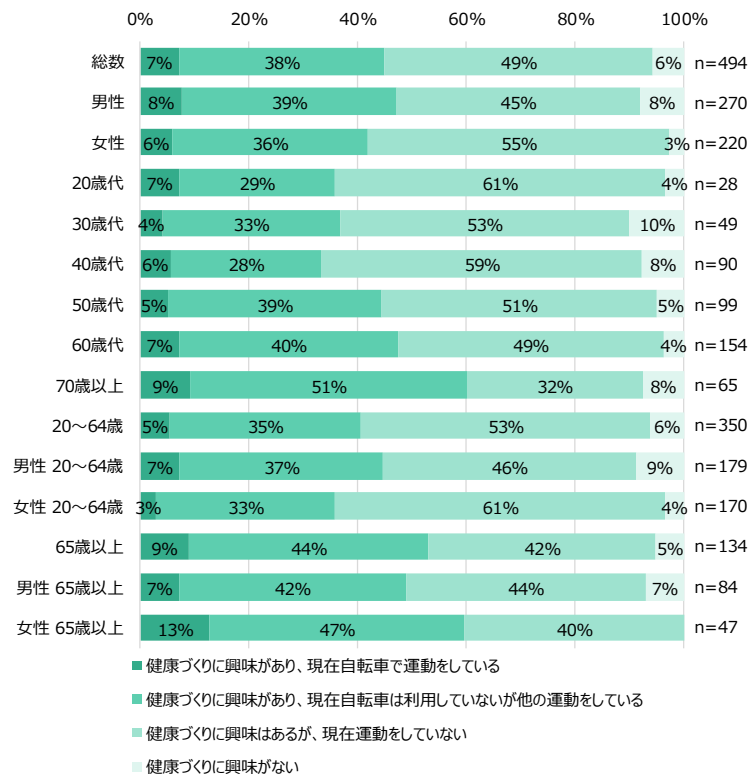
出典：令和2年版 観光白書

図 3.54 日本人の国内旅行消費額及び前年同月比の推移

5) 伊予市民の健康

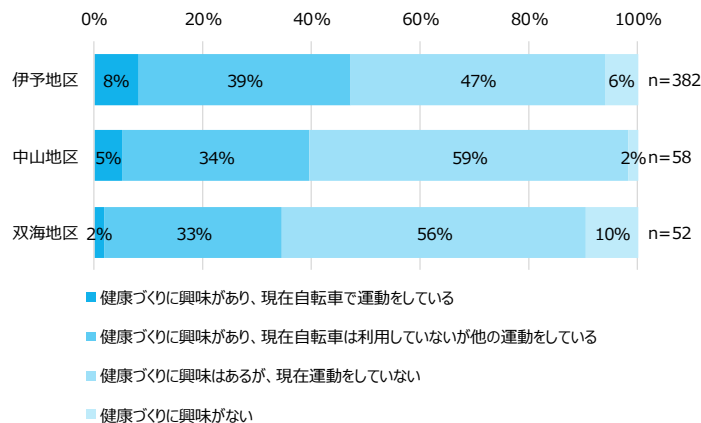
(1) 健康づくり

- 全体では、自転車を含め運動している人が約4割となっています。
- 自転車を含め健康づくりに興味があり、現在運動をしている割合は若年層ほど低くなっています。
- 伊予地区は中山地区・双海地区に比べて運動をしている割合が高くなっています。
- 運動している人を除き、総じて健康づくりに興味がないよりも興味がある割合が高くなっています。



出典：市民アンケート調査

図 3.55 伊予市民の健康づくり(年齢階層別)



出典：市民アンケート調査

図 3.56 伊予市民の健康づくり(居住地区別)

(2) 健康寿命

- 伊予市の平均健康寿命は男性 64.7 歳、女性 66.9 歳で、愛媛県平均男性 64.8 歳、女性 66.8 歳と同程度となっています。
- 伊予市では「日常生活動作が自立している期間の平均」を 2013 年度の間評価より伸ばすことを目標としています。

		伊予市	愛媛県	国
平均寿命	男性	78.5	79.1	79.6
	女性	86.4	86.5	86.4
健康寿命	男性	64.7	64.8	65.2
	女性	66.9	66.8	66.8
平均寿命と健康寿命の差	男性	13.8	14.3	14.4
	女性	19.5	19.7	19.6

【資料】国保データベース（KDB）システム帳票 No.1 地域の全体像の把握（平成 29 年 9 月 4 日抽出）

【評価指標の達成状況】

指標	最終目標 2023 年度	策定時	中間評価	比較	指標または目標の 変更や考え方	出典
「自分が健康であると自覚している期間の平均」を変更 日常生活動作が自立している期間の平均	「健康な期間を延ばす」を変更 男性 78.98 年より伸ばす 女性 82.93 年より伸ばす	男性 58.83 年 (2012 年度)	男性 78.98 年 (2013 年度)	—	アンケート回収率が一定の水準を満たしていないなどにより、健康寿命の算定に適さないと判断し介護保険事業状況（要介護 2 以上の認定者数）より算出することとした。	A
		女性 66.63 年 (2012 年度)	女性 82.93 年 (2013 年度)	—		
40 ～ 64 歳の年齢調整死亡率	「県に近づける」を変更 男性 446.9 以下 女性 181.6 以下	男性 642.1 県 男性 572.7 (2005 ～ 2009 年)	男性 446.9 県 男性 471.4 (2010 ～ 2014 年)	↓	市・県共に数値は、5 年分の人口と死亡数を用いて算出しているため参考値とする。	B
		女性 242.6 県 女性 239.5 (2005 ～ 2009 年)	女性 181.6 県 女性 199.0 (2010 ～ 2014 年)	↓		B
中 間 評 価 結 果						
・「日常生活動作が自立している期間の平均」の算出は、介護保険の申請状況等の影響を受けることから相対的にみていきます。今後は、中間年と最終年を比較して、健康寿命（推定値）を確認していく必要があります。また「40 ～ 64 歳の年齢調整死亡率」については、男女共に策定時と比べて、県と同様の傾向にあり、低くなっています。						

※年齢調整死亡率とは：基準となる人口の年齢構成を考慮して補正した死亡率のこと。

出典：伊予市健康づくり・食育推進計画

図 3.57 伊予市の健康寿命と評価指標



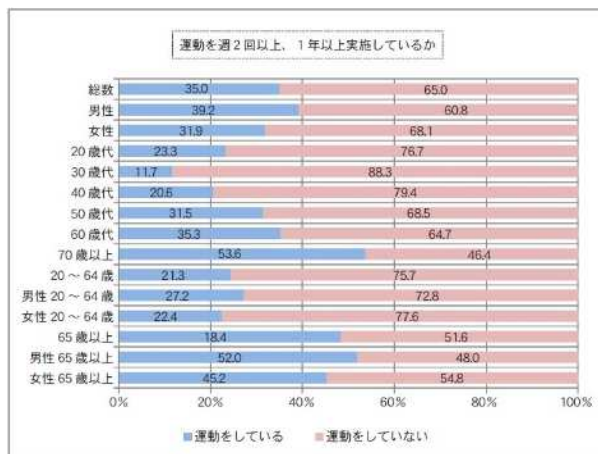
(3) 運動習慣

- 日常生活における歩数は 2012 年度より改善していますが、運動習慣者の割合は 2012 年度よりも悪化しています。
- 運動習慣者の割合は若い世代の方が低くなっています。
- 運動不足を感じている人の割合についても若い世代の方が高くなっています。

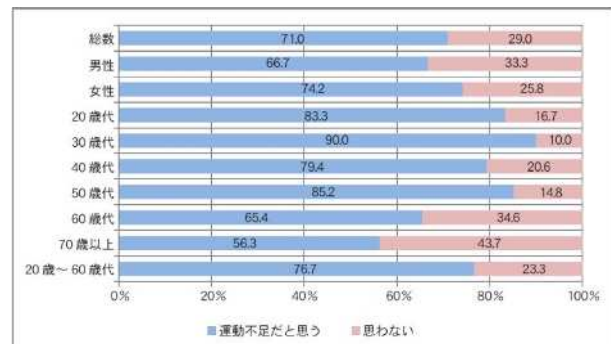
【評価指標の達成状況】

指標		最終目標 2023 年度	策定時 2012 年度	中間評価 2017 年度	比較	指標または目標の 変更や考え方	出典
日常生活における歩数	20 ～ 64 歳	男性 6,500 歩以上	男性 4,723 歩	男性 5,788 歩	↑		A
		女性 7,000 歩以上	女性 5,376 歩	女性 5,705 歩	↑		
	65 歳以上	男性 7,000 歩以上	男性 5,215 歩	男性 5,138 歩	↓		
		女性 6,000 歩以上	女性 4,240 歩	女性 5,033 歩	↑		
運動習慣者の割合	20 ～ 64 歳	男性 42.0%以上	男性 32.2%	男性 27.2%	↓		A
		女性 35.0%以上	女性 24.9%	女性 22.4%	↓		
	65 歳以上	男性 68.0%以上	男性 57.4%	男性 52.0%	↓		
		女性 58.0%以上	女性 47.6%	女性 45.2%	↓		
運動不足を感じている人の割合		50.0% 以下	74.1%	76.7%	↑		A

運動習慣者の割合



運動不足を感じている人の割合



出典: 伊予市健康づくり・食育推進計画

図 3.58 伊予市 健康づくりアンケート(平成 29 年)と運動習慣評価指標

6) 伊予市民の防災

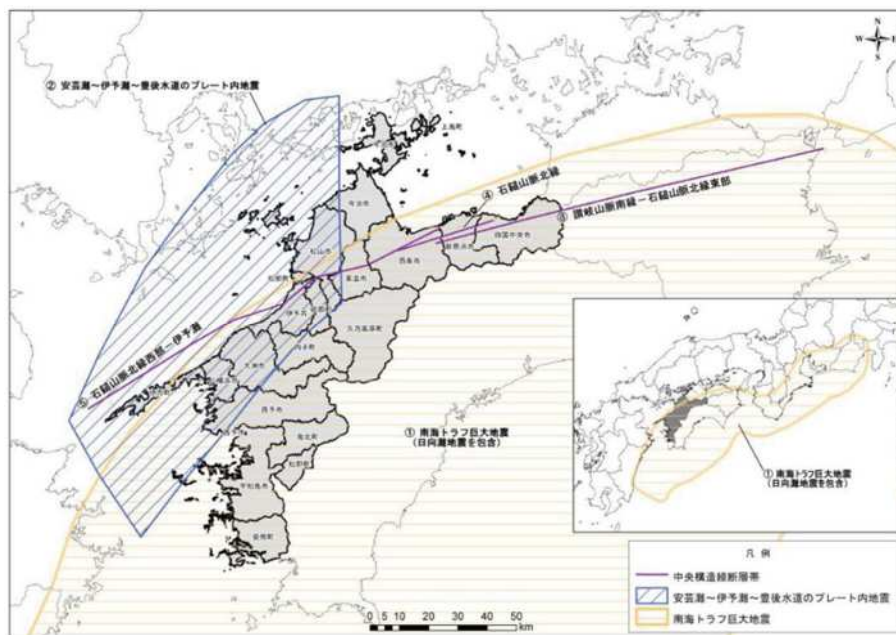
- 伊予市では南海トラフ巨大地震や芸予地震が想定されており、最大クラスの津波をもたらすと想定されています。
- 災害時の避難手段や災害発生後の移動手段として、自転車の活用が有効であり、複数の自治体で災害時の自転車活用に取り組み始めています。

(地震の想定)

区分	名称	マグニチュード*
(1) 海溝型地震	①南海トラフ巨大地震	9.0 (津波 9.1)
	②安芸灘～伊予灘～豊後水道のプレート内地震 (芸予地震)	7.4
(2) 内陸型地震	③讃岐山脈南縁～石鎚山脈北縁東部 (中央構造線断層帯) の地震	8.0
	④石鎚山脈北縁 (中央構造線断層帯) の地震	7.3
	⑤石鎚山脈北縁西部～伊予灘 (中央構造線断層帯) の地震	8.0

(津波の想定)

地域海岸名	ケース区分	大すべり域、超大すべり域
伊予灘	基本的	大すべり域、超大すべり域が1箇所のパターン 駿河湾～紀伊半島沖
	その他派生的	大すべり域、超大すべり域が2箇所のパターン 室戸岬沖 日向灘

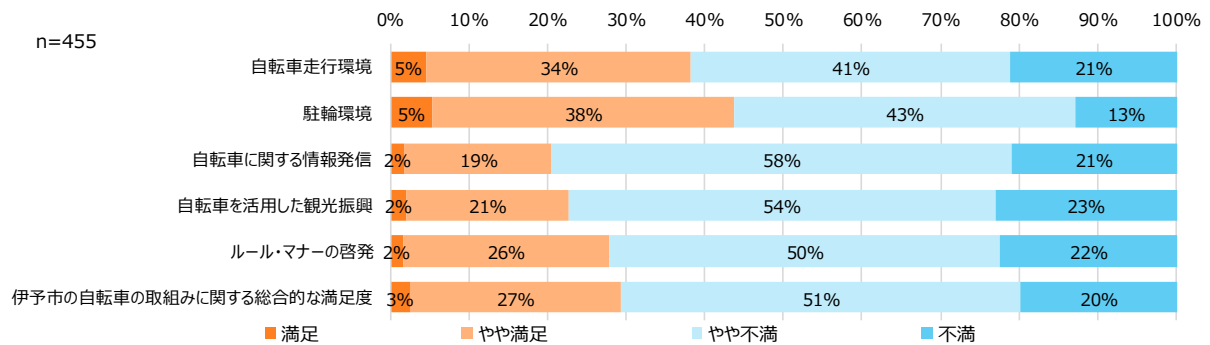


出典:伊予市地域防災計画

図 3.59 伊予市での地震・津波の想定

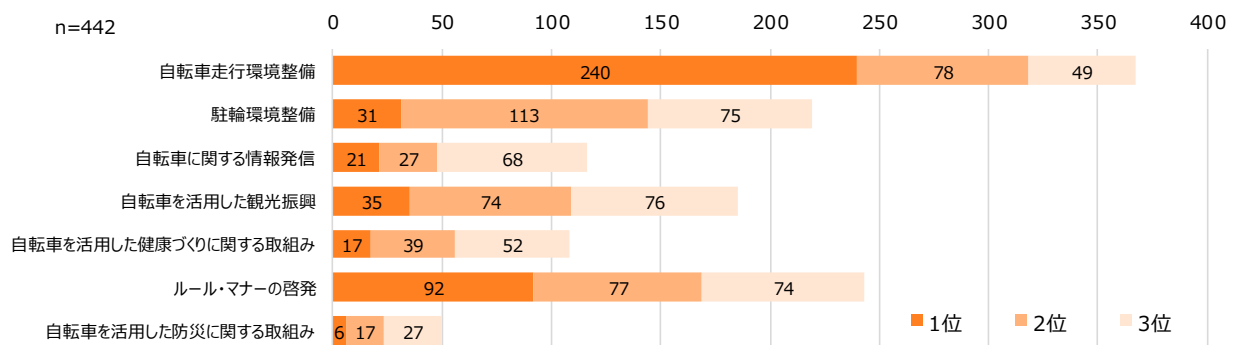
7) 伊予市の自転車環境の満足度

- 全体的に「やや満足」、「満足」よりも「やや不満」、「不満」の割合が高くなっており、特に「自転車に関する情報発信」、「自転車を活用した観光振興」、「ルール・マナーの啓発」の満足度が低くなっています。
- 優先してほしい施策は「自転車走行環境整備」が最も多く、次いで「ルール・マナーの啓発」となっています。



出典：市民アンケート調査

図 3.60 伊予市の自転車環境の満足度



出典：市民アンケート調査

図 3.61 優先してほしい政策

3.2 伊予市の自転車に関わる課題の整理

以上を踏まえ、伊予市の自転車に関わる課題を整理しました。



図 3.62 伊予市の自転車に関わる課題の整理



4 計画の基本方針・目標

4.1 課題を踏まえた計画の基本方針

課題を踏まえ、本計画の基本方針を以下の通り定めます。



図 4.1 課題を踏まえた計画の基本方針



4.2 基本方針を踏まえた目標

計画目標は、上記基本方針を踏まえ、以下の通り設定します。

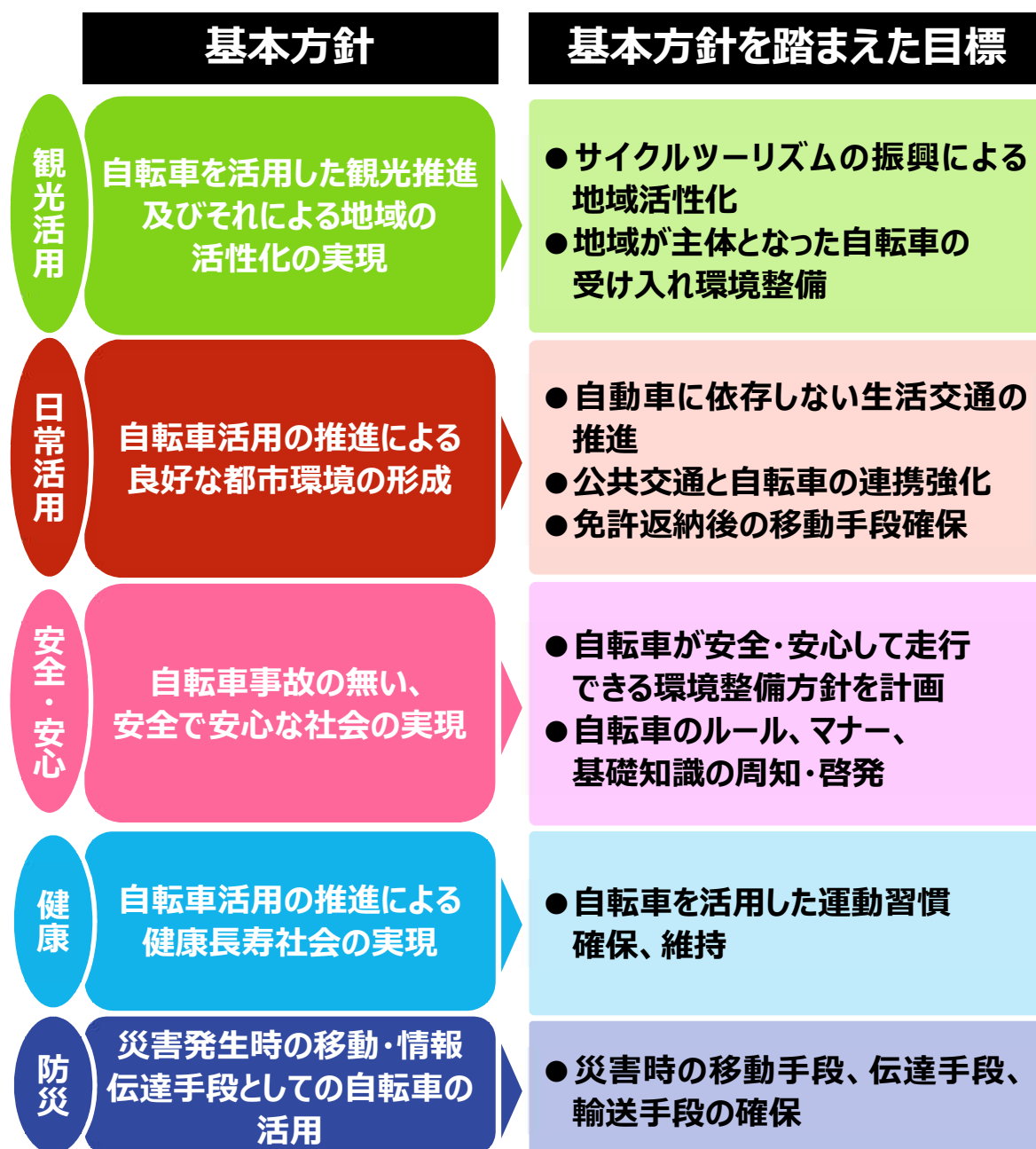


図 4.2 基本方針を踏まえた計画目標



5 実施すべき施策とスケジュール

5.1 実施すべき施策

計画目標達成のために、具体的に実施すべき施策を以下の通り定めます。

表 5.1 実施すべき施策

基本方針	目標	項目	SDGs
観光活用	サイクルツーリズムの振興による地域活性化	デジタルコンテンツの活用による伊予市サイクリングの魅力発信	5 ジェンダー平等を促進しよう 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
		新たな視点からの伊予市らしい自転車観光プランの提案	8 働きがいも、経済成長も 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
	地域が主体となった自転車の受け入れ環境整備	市民との協働・参画による自転車観光の受け入れ態勢充実	11 住み続けられるまちづくりを 12 つくる責任、つかう責任
		企業・団体等との協働・参画による自転車観光の受け入れ態勢充実	13 気候変動に具体的な対策を 17 パートナリシップで目標を達成しよう
日常生活	自動車に依存しない生活交通の推進	自転車を利用しやすい都市環境を計画（ハード整備方針に係る計画）	3 すべての人に健康と福祉を 4 質の高い教育をみんなに
		自転車を活用した新しいライフスタイルの提案（ソフト事業）	5 ジェンダー平等を促進しよう 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
		自転車通勤の促進に関する取り組み	9 産業と技術革新の基盤をつくろう 11 住み続けられるまちづくりを
	公共交通と自転車の連携強化	公共交通機関との連携	13 気候変動に具体的な対策を 17 パートナリシップで目標を達成しよう
	免許返納後の移動手段確保	中高年に向けた自転車利活用の提案	
安全・安心	自転車が安全・安心して走行できる環境整備	快適で安全な自転車環境に向けての計画	3 すべての人に健康と福祉を 4 質の高い教育をみんなに
		自転車の安全運行に関する意識啓発	11 住み続けられるまちづくりを 17 パートナリシップで目標を達成しよう
		関係機関との連携強化	
	自転車のルール、マナー、基礎知識の周知・啓発	年齢・属性に応じた交通安全教育の実施	



基本方針	目標	項目	SDGs
健康	自転車を活用した運動習慣確保、維持	自転車利用による手軽な運動習慣確保のための周知・啓発	      
防災	災害時の移動手段、伝達手段、輸送手段の確保	災害時の移動、伝達、輸送手段としての自転車保有・整備の周知・促進	   

5.2 実施すべき施策のスケジュール

各施策の実施スケジュールについては、計画期間である、2022 年度（令和 4 年度）から 2026 年度（令和 8 年度）までの 5 年間の間に実施するものとします。



6 推進体制及びモニタリング方法

6.1 推進体制

本計画は、当市、愛媛県等の「公的機関」、サイクルオアシス、組合等の「企業」、地元飲食店主・商店主等、おもてなしさん※等の「住民」の3者が協働して実施していきます。



図 6.1 計画の推進体制

※ おもてなしさんとは

伊予市おもてなしさんとは、伊予市のいろいろな価値＝いいね！を、ご自分の SNS でシェアする人のことで、いいね！の輪を広げることで伊予市のファンを作っていくためのプロジェクトです。

伊予市にお住まいの方はもちろん市外の方も、このまちのことが好きなら誰でも参加することができます。



出典：伊予市おもてなしさん手帖

また、観光分野からの産業振興を中心として具体的に実現していくための実施計画として位置付けられる「伊予市まるごと おもてなしプラン ～伊予市観光振興計画～」と連携しながら推進していきます。

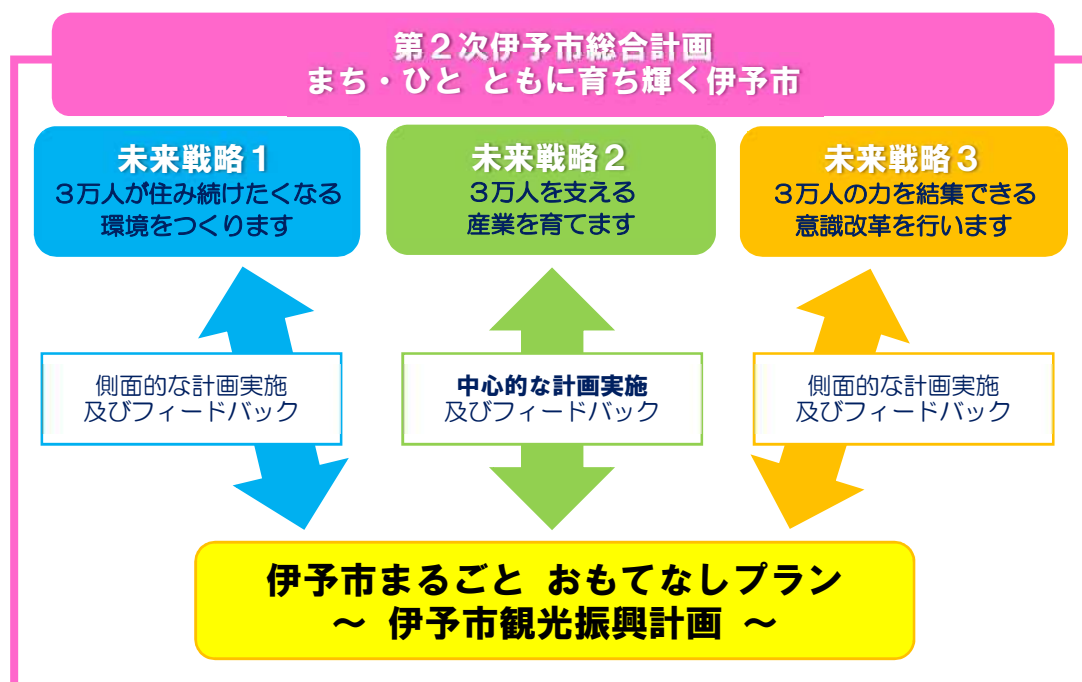


図 6.2 伊予市まるごと おもてなしプランの位置付け

6.2 モニタリング方法

計画を着実に推進していくために、計画目標を設定します。公的機関、企業、住民の3者でPDCAに基づき、各施策の実施状況、課題を確認し、必要に応じて計画の見直し、改善を検討していきます。

表 6.1 モニタリング方法

基本方針	アウトカム指標	現状値	目標値
観光活用	主要観光施設の入込客数	54万人 (R1 2019)	60万人 (R8 2026)
	e-bikeの利用者数	0人 (R2 2020)	500人 (R8 2026)
日常活用	自転車走行環境の満足度	38.2% (R3 2021)	50.0% (R8 2026)
	日常利用での自転車分担率	7.0% (R3 2021)	10.0% (R8 2026)
安全安心	自転車事故件数（5年間）	39件 (H28 2016～R2 2020)	25件 (R4 2022～R8 2026)
	自転車保険加入率	71.3% (R3 2021)	80.0% (R8 2026)
健康	健康づくりのための自転車での運動実施率	7.1% (R3 2021)	9.0% (R8 2026)
防災	災害時での自転車の活用	—	伊予市地域防災計画等での位置づけを検討

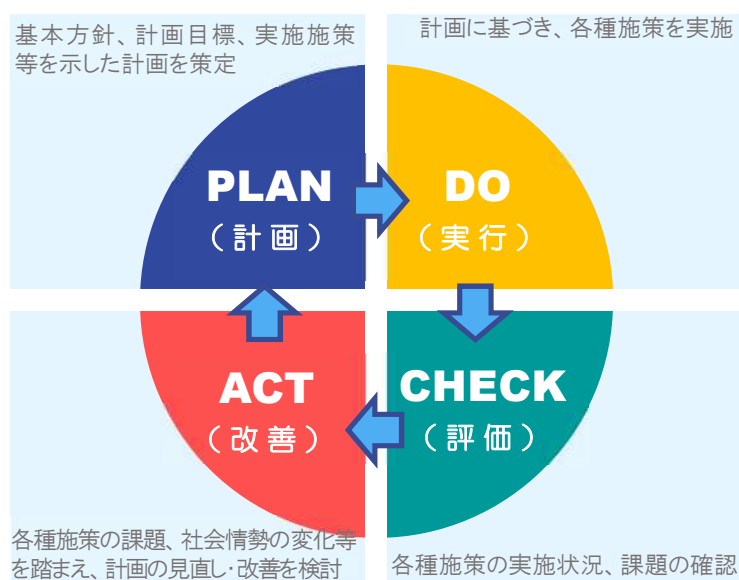


図 6.3 PDCA サイクル



伊予市自転車を活用した観光等推進計画

2022 年 2 月

発行：伊予市

〒799-3193 愛媛県伊予市米湊 820 番地

電話 089-982-1111（代表）

公式ホームページ <https://www.city.iyo.lg.jp/>

編集 産業建設部 経済雇用戦略課